Wild Hunt New Era 3
Cat`S Land
kiyohiko yashima

目次

スティーブンの大冒険 1
ヒューマンレッドアイズの殲滅 21
ねこの国のティム 38

スティーブンの大冒険

ＦＢＩの SWAT のリチャード・ルノーとニュースキャスターのルーシー・ルノーは結婚してワシントン D.C. からＬＡ郊外に佇む。リチャードはマーシャルアーツ道場を開いてルーシーの間でスティーブン・ルノーが産まれた。スティーブンは幼少期からマーシャルアーツを学んで大会で賞を取っていたけど青年になると道場を継いでもらおうとした親の反対を押し切って、宇宙に興味を持ってる宇宙飛行士の夢に向けてワシントン D.C. にある NASA エアナショナルハイスクール宇宙工学科パイロット育成コースを奨学金をもらって入学してパイロット養成課程を修了して NASA のアメリカ航空宇宙局のパイロットの契約書にサインした。スティーブンは優秀な成績で NASA エアナショナルハイスクールを卒業した。宇宙飛行士のスティーブンは研修後におっちょこちょいなジム・ハートリーと喧嘩っ早いブライアン・ハンサカーと女子で可愛らいリリー・ヘイグルと NASA パイロットエースとして出会った。火星偵察機が怪しい物陰を映し出して破壊された。ユース４は火星スペースコロニーの安全のために調査する必要があるとしてスペースシャトルに乗り込んだ。ユース４は火星にたどり着いて破壊された火星偵察機に探査車に乗って向かっていった。ユース４は粉々にされて燃えついた火星偵察機を見つけ出した付近で直径２５センチのクモ型火星の寄生虫ジーク４匹が現れた。ユース４はジーク４匹をレーザーガンで撃っていって、ジーク３匹を駆除した。残ったジーク１匹がブライアンのヘルメットにへばり付いて、ヘルメットを突き破った鼻と口を塞いで窒息させて倒れたブライアンの口の中へ入っていった。ジーク１匹が宿ったブライアンは目を赤くして立ち上がって、ユース３を襲いかかっていった。ユース３は仕方がなく仲間のブライアンをレーザーガンで撃っていった。ジークは倒れ込んだブライアンの腹の中から白い宇宙服を突き破って出て来た。ユース３は走り回っているそのジークを仕留めた。ユース３は探査車を動かして火星基地に戻っていった途中で現れた謎の宇宙船から飛び立ってきた宇宙飛行隊３機に攻撃されて突っ走っていった。ユース３は目の前に見えたクレーターに突っ込んで飛び降りたが湖だと予期せず探査車が湖の底に沈んでいった。ユース３は湖から上がって動けなくなったので火星基地に連絡して救助を求めた。ユース３は空を見上げれば謎の宇宙船と宇宙飛行隊３機はどこかへいって、姿を消していた。救助されたユース３は火星基地じゃなく火星スペースコロニーへ向かっていって、火星スペースコロニーにたどり着いて中に入ると、マーズタウンから離れて栄えた１８番街の向こうにある火星水道局に湖があることを調査報告した。任務を終えたユース３は火星スペースコロニーから外へ出ていって、スペースシャトルに乗り込んだ。スティーブンは発射前に地震が起きてオリンポス山の噴火かなと思ってスペースシャトル

から外に出て様子を窺った。宇宙船ヅイスターと宇宙飛行物体ビースター３機が火星スペースコロニーを攻撃して逃げ惑う住民たちの１８番街を破壊していった。スティーブンは慌ててスペースシャトルに戻って急いでスペースシャトルを発射させて地球へ向っていった。スティーブンはブースのドアを開けたままにしていたためにスペースシャトルにジーク３匹が紛れ込んで壁に張りついていた。スペースシャトルは段々と地球に近づいてアメリカ大陸に向かって、サンディエゴ空軍基地にパラシュートを開いて無事着陸した。ユース３は足を開いて座った状態の変な格好での記者会見をした。ユース３はパピュラス星人が火星スペースコロニーを来襲したと報告した。NASA の大型モニターにノイズがかかる電波信号が発信されて宇宙船ヅイスターからひょろ長いトカゲのようなパピュラス星人のピト卿が現れた。ピト卿はコンタクトできたブラウン局長に、「地球の資源を提供するなら攻撃を避ける」と言った。ブラウン局長は、「大切な資源を提供するなどはとてもできないな！」と言った。ピト卿がはっきりと映し出された NASA の大型モニターはノイズがかかってから途切れた。徐々にテキサス州ヒューストン競技場にヅイスターが舞い降りた。反論をしたブラウン局長にピト卿は最後の要求に応えず警告を無視したためにビースター３機とグレヅリー２機を発進させてロサンゼルスを攻撃していった。ビースター３機はＬＡの超高層ビルを攻撃して次々と破壊していった。グリヅリー２機は高級住宅街に破壊力ある爆弾を落とした。ヅイスターから輸送機のタンバリンが降り立って、中からパピュラス星人７３人が現れた。サンディエゴ空軍基地でスペースシャトルの整備点検のためにエンジニア３人が入っていた。エンジニア３人にジーク３匹が飛びついて鼻と口を塞いで窒息させて倒れ込んで口の中に入って寄生した。目覚めたエンジニア３人は、目を赤くして局員に襲いかかっていって、寄生したジークが口から口へと移って寄生していった。暴徒するジーク感染者をヒューマンレッドアイズ（ HRE) と呼ばれた。ＨＲＥ感染者の局員は車で NASA のヒューストン宇宙センターに移動して局員に襲いかかって、ジークを口から口へ移して寄生させた。ＨＲＥの局員はヒューストン宇宙センターから外に出て、街ゆく人々に次々と襲いかかって、寄生させては繁殖していった。ユース３はヒューストン宇宙センターから広がったＨＲＥ団をレーザーガンで撃っていった。ジーク駆除だけに結成されたジークバスターズは、ＨＲＥ団を火炎放射器で火炎を放って火破りしていった。ユース３はジークバスターズと手を組んでヒューストン付近にいるＨＲＥ団を全滅させた。NASA 衛星ミサイルを飛び交うビースター２機とグレヅリー２機に向けて発射して４機に命中した。ヅイスターの近くまで車で移動したユース３は、ヅイスターに乗り込もうとしたときにパピュラス星人の男の子のピューゴが現れた。ピューゴはユース３に、「おまえらここで何をしてるんだ？」と問うて光線銃を向けてきた。ユース３はピューゴにレーザーガンを向けるとジムの背後に回って爪を長く伸ばしてジムの背中に突き刺した。ユース２は倒れたジムの敵討ちにピューゴをレーザーガンで撃っていった。突然に、「ピューゴ！」と叫んで母のゼジルが現れた。ゼジルは倒れたピューゴを抱き上げた。怒ったゼジルにスティーブンはレーザーガンを向けた。ゼジルは青いサファイアネックレスをはずしてスティーブンに、「ヅイスターに入るには機体に青いサファイアが強く光るところに当てて！」と言って青いサファイアを手渡した。ゼジルは、「私はゼジルです！ 中に入れたらピューナって女の子を助けてやっておくれ！」と言った。スティーブンは機体の強く光るところのノ

ブを下げて入り口を開いた。スティーブンとリリーは迷路のような通路を走っていった場所で後ろ向きに座っているピト卿らしき者と遭遇した。冷酷なるピト卿は立ち上がってスティーブンとリリーのレーザーガンを奪ってリリーを捕えて光線銃をリリーの首に突き付けた。手出しできないスティーブン側にピューナがやってきた。スティーブンはピューナを捕えてピューナの首にナイフを突き付けた。ピト卿はスティーブンに、「どうやって中に入ってこれた」と聞いた。スティーブンは、「ゼジルから青いサファイアネックレスをいただいた」と答えた。ピト卿は、「ピューゴという子がいただろう！ ゼジルとピューゴはどうなった？」と聞いた。スティーブンは、「ピューナを助けてやっておくれと頼まれたが、仲間を殺されたんで二人とも殺した」と答えた。ピト卿は、「よくも妻と子供を！ だがピューナは俺の子ではない」と言って、スティーブンにレーザーガンを向けて撃とうとした。ＬＡ郊外に佇む父のリチャードはサンディエゴから家までやってきたＨＲＥ団をガトリング銃で撃っていった。そんなリチャードはスティーブンを心配してかＬＡ郊外からヒューストンまでやってきて、ヅイスターの開いた入り口から入っていって、スティーブンのいる場所に鍵付けてピト卿の背後にひっそりと隠れていた。スティーブンはリチャードに気づいた。リチャードは、「伏せろー！ スティーブン」と言って合図してスティーブンとリリーが床に伏せたときにリチャードがガトリング銃でピトゴラス卿の脳天を撃ち砕いた。あえなくピトゴラス卿は倒れた。スティーブンはリチャードに、「ありがとう！ よくここにいることがわかったな」と聞いた。リチャードは、「英雄になる息子だけにボスのいる宇宙船を狙うと思ったからさ」と答えた。リチャードがピューナにガトリング銃を向けるとスティーブンはリチャードに、「ゼジルと約束をしたんだ！ ピューナを殺さないでくれ！」と言った。リチャードは、「殺さないさ！ ピューナは子供のようだったんでピト卿の頭だけを狙ったんだ！」と言った。スティーブンとリチャードはヅイスターの心臓部であるコアエナジーを探して見つけ出した。そして、コアエナジーに３個の時限爆弾を設置した。リチャードとスティーブンとリリーとピューナはヅイスターを脱出して車で突っ走った。ヅイスターは１５分後にコアエナジーを破壊して大爆発した。リチャードとスティーブンはリリーとピューナを車から安全な場所に降ろして、ロサンゼルスで戦っているジークバスターズのところへ車で向かっていった。リチャードとスティーブンはヒューストンまで来たときに、リチャードの豪邸を持つ金持ちの友人が操縦の自家用飛行機に乗ってロサンゼルスへ向かった。戦場に着いたリチャードとスティーブンはパピュラス星人群をガトリング銃とレーザーガンで撃ちまくった。勢いがよく追ってくるパピュラス星人の光線銃を奪って、撃ちまくったスティーブンはパピュラス星人群を２分の１に減らした。ジークバスターズは長身のパピュラス星人に掴まれて首の骨を折られる者もいながら火炎放射器で火炎を放って、残るパピュラス星人群を殲滅させた。ＬＡ付近のＨＲＥ団を全滅させた。ロサンゼルスは壊滅状態になったNASA は火星スペースコロニーの再建するのにバリケードを張る対策を考案した。壮大な戦いは終わって国民の勝利となった。勇敢なスティーブンは民衆に囲まれて英雄となった。かつてパピュラス星人が日本の阿修羅島に置いてった時空転送の門と三次元装置がアラスカでラテン人と一緒に発見された。ラテン人は病院に送られて時空転送の門などは警察に引き渡された。警察はハレー彗星か隕石か地球外の物だろうと思って、NASA に連絡してエイムズ宇宙センターに持ち込まれた。ギルバー

ト博士は時空転送の門と三次元装置がほとんど鉄である地球外物質と判明した。２０年後にて、ギルバート博士はエイムズ宇宙センターの天文台近くに置いた時空転送の門と三次元装置を調査してるときに夜しか開かないシャッターを全開にした。ギルバート博士は真昼にシャッターを開いて、太陽の光に反応した時空転送の門と三次元装置を見てタイムトラベルのできる物であることが解った。ギルバート博士は三次元装置に漢数字で一八七〇と二〇一六と点滅していて、それが過去と未来の年号と解った。ギルバート博士はラテン人が日本での明治初期から平成後期の頃にやってきたことが解った。ギルバート博士は三次元装置にドリルで穴を開けて調べた結果でなんらかの原因があって三次元装置に水が入っていて、作動したときにショートしてまったく違う異国の地にたどり着いたと解明した。ギルバート博士は三次元装置に入ってる水を抜いて、なんとかして電子回路を修理した。ギルバート博士は元の場所に戻ってこれるかわからない時空転送の門をくぐって、タイムトラベルする実験の志願者を求めた。スティーブンは志願者５名のうちの代表として NASA の本社からエイムズ宇宙センターに行って、天文台の研究室にいるギルバート博士を訪ねた。スティーブンは宇宙に通じる線があると信じてギルバート博士と時空転送の門をくぐる実験台となることを約束をして、その前にもしものことがあるかもわからないので家族に会いに飛行機でＬＡ郊外のルノー家へ帰っていった。ルノー家に着いたスティーブンは母のルーシーが迎えた後で、パピュラス星人の女の子のピューナが現れた。ピューナはスティーブンの妹のキャメロンとして、１年の間で５歳も成長して高校を通う女子高生になっていた。あのときにリリーとピューナはヒューストン宇宙センターの安全な場所に保護された。リリーはヒューストン宇宙センターの宿舎に残って、ヒューストン宇宙センターで宇宙飛行士を辞めてエンジニアとして、活動することになったために、NASA の本局から女性局員に頼んで荷物を送ってきてもらった。ピューナはスティーブンだけリチャードの友人の飛行機に乗ってヒューストンに来て、豪邸から車でヒューストン宇宙センターへ向かった。スティーブンはヒューストン宇宙センターに着いて、ピューナを連れて特急電車に乗ってロサンゼルスへ向かっていった。スティーブンとピューナはＬＡ郊外のルノー家に着くと、ピューナを家族に招いた。そんなキャサリンはスティーブンに、「時空転送の門をくぐって、もしも宇宙へ行けたら、この爬虫類のような肌をすべすべした人間らしい肌になれる薬品をお土産に待ってる！」と言った。リチャードはスティーブンに、「お母さんと出会ってから２年間の交際が続いた１年後におまえが産まれた。そして、２年の間で二度のテロが起きて SWAT のときに、ウッド隊長に一命を助けられた。ウッド隊長はおまえにそっくりだった！」と言った。スティーブンは、「そのウッド隊長が自分にそっくりだなんて！会ってみたいな！」と言った。スティーブンは NASA の本局に戻った。翌日の真昼にスティーブンは、エイムズ宇宙センターのギルバート博士のいるところにやってきた。ギルバート博士はスティーブンに、「アインシュタインは『タイムトラベルが可能である』と言っていた。アインシュタイン方程式で宇宙は時空の塊ようなものであると考えている。２１年前の若き私に会ったら、ワームホールは実在すると伝えてくれよ！」と言った。宇宙服を着たスティーブンは、「はい！ そのワームホールは宇宙と異なる時空連続体を短く遮断しているトンネルと聞いてます」と言って、２０１４年４月３日の１２時２０分に設定して時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは２１年前のエイムズ宇

宙センターにたどり着いて、突然と現れた時空転送の門に驚いている若きギルバート博士と出会った。宇宙服を脱いだスティーブンはギルバート博士に、「俺は２１年後の未来からやってきたスティーブン・ルノーだ！ 未来のギルバートさんから、『タイムワームは実在すると伝えてくれ！』と言われました」と言った。ギルバート博士は、「アインシュタインがいっていたとおりタイムトラベルは可能だったか！」と言った。スティーブンは、「ウッド隊長から一命を助けられたリチャード父さんにどんなことがあったのかルーシー母さんと結ばれるまでの１年を知りたい。また未来へ戻るときに、宇宙へ通じる線があると信じる」と言った。スティーブンはギルバート博士から借りた赤いドゥガティのイタリアンバイクに乗って連邦捜査局ＦＢＩの本部へ向かっていった。ＦＢＩの本部に着いたスティーブンはＦＢＩアカデミーに入校すればいつかリチャード父さんに会えると信じて未来で偽造した身元確認書を渡して志願書に署名した。スティーブンは明日の受験に備えて近くのホテルで休んだ。スティーブンはＦＢＩアカデミーの受験して３日ほど結果を待って見事に合格した。スティーブンはＦＢＩアカデミーのテレビのない狭い寮で新生活を始めた。スティーブンはＦＢＩアカデミーの研修で初日から訓練指導者のジョン・クウォーク長官が訓練生３０人の前に現れた。クウォーク長官は訓練生に、「これからきさまらに２０週間の過酷な訓練に励んでもらうぞ！」と言って最初に心理交渉術を教えた。スティーブンはクウォーク長官に、「スティーブン・ルノーといっていたが！ FBISWAT にリチャード・ルノーという者もいるが、兄弟か親戚か何か？」と聞いた。スティーブンは、「従兄弟です！」と答えた。訓練生３０人は山でランニングして訓練施設で筋力トレーニングをして輸送機からパラシュートで降りる訓練をして射撃訓練と狙撃訓練していって、最終日まで３０人のうち９人が残った。９人は森林でゴム弾を使ったサバイバルゲームをすることになった。クウォーク長官はサバイバルゲームをする前に自己紹介させたシャイで繊細なジョン・エドワーズとシシリアンで女好きなフランク・バトラーとおっちょこちょいで陽気なドナルド・ダニエルズと敏腕の狙撃者イーサン・モリスと黒人でダンス好きなルーカス・ロングと正義感が強くて真面目なパトリオック・エリオットと唯一の女性の訓練生で小柄なエミリー・シャーロットと韓国系でテコンドーの得意なトニー・チョイとマーシャルアーツが得意なスティーブンの９人で挑んだ。クウォーク長官は訓練生たちの自己紹介が終わって５対５に振り分けるのに一人足りなかったのでＦＢＩアカデミー卒業生で優秀なアレックス・ウッドを女戦士のいる側につけた。スティーブンはアレックスを見ると、「あれがウッド隊長か！ 全然そっくりじゃない」と思った。訓練生の９人と卒業生の一人は防弾チョッキと保護用メガネをかけて、森林の所定場所に集まった。クウォーク長官は訓練生たちを赤チームにパトリック班長でスティーブンとドナルドとイーサンとルーカスの５人と青チームにアレックス班長でトニーとジョンとフランクとエミリーの５人に振り分けて、サバイバルゲームを開始させた。SWAT のユニホームを着た訓練生たちは赤チームが南側へ青チームが北側へ森林を散らばっていって、イーサンが茂みに隠れて青チームがやってくるのを待ってライフル銃で標準を合してジョンとフランクを撃って気絶させた。赤チームと青チームは出会い頭となって、トニーがパトリックの持ったライフル銃を蹴飛ばしてパトリックの腹を撃って気絶させた。訓練生たちは隙をみて再び散らばっていって、スティーブンと道化師のドナルドが急斜面を降り立った。ルーカスが茂みに隠れたイーサンを横切って

イーサンが場所を移動してエミリーが背後からルーカスの背中を撃って気絶させた。歩いているイーサンを見つけたアレックスがイーサンの足を撃って、背後から背中を撃って気絶させた。トニーに出会ったスティーブンとドナルドはトニーと格闘してお互いにライフル銃を奪われてスティーブンが危うくなったときにドナルドがトニーの背中を撃って気絶させた。スティーブンがエミリーの背中を撃って気絶させた。アレックスが木のそばにいるドナルドを見つけて撃とうとしたときに、木の上に登って隠れていたスティーブンがアレックスの胸を撃って気絶させた。最後まで残ったスティーブンとドナルドの力で赤チームが勝利した。目覚めた訓練生たちはすべて訓練を終了させた。後日、卒業式を終えて普段は一緒に食事を摂らなかった訓練施設の食堂室でピザとドリンクをデリバリで頼んで卒業パーティーをした。卒業生の９人はクウォーク長官に見込まれた後で、それぞれの部署へ配属された。ジョンとフランクとエミリーとルーカスはＦＢＩ捜査官にパトリックとスティーブンとドナルドとイーサンとトニーはアレックスと同じでSWAT特殊部隊にイーサンはSWAT特別狙撃隊に抜擢された。３ヶ月後、世界銀行の本部に押し入る強盗団が現れて緊急事態が起きた。ワシントンD.C.にある世界銀行の本部へとSWAT特殊部隊が派遣された。歴代の大統領たちのお面を被った強盗団は世界銀行の本部を占拠して世界銀行の職員を人質にして立てこもっていた。強盗団のリーダーはモバイルフォンでインスタグラム配信でローガン大統領に途絶えた巨額の援助融資を求めて世間を驚愕させた。中国の経済はアメリカの援助融資のお陰で日本より急成長して２位まで行っていたが、２０１４年に香港で中東呼吸器症候群（MARS)が流行って、世界の国々に感染者が広がってアメリカも影響を受けたために援助融資を停めた。強盗団は会議室のモニターでＴＶニュースを見てローガン大統領が要求を応じずインスタグラムのライブ配信のメッセージで交渉したが無視したために、世界銀行に突入することにした。警官隊に包囲されてる世界銀行本部の入り口の扉を破城槌（はじょうつい）で破壊してアサルト小銃と盾を持ったSWAT部隊が突入した。世界銀行の本部の向かい側ビル５階の部屋の窓からSWAT狙撃隊が強盗団を標的にした。SWAT部隊は発煙手榴弾を投げて煙たい中でショットガンで撃ってくる見張っていた強盗団を撃っていって、４人のうち３人を減らした。強盗団の一人は３階の会議室へ上がっていった。SAWT狙撃隊は会議室に人質の職員３０人いるなかで狙撃銃で標準を合した強盗団の５人をイーサンの合図で一斉に撃った。強盗団の５人のうち３人を減らした。イーサンは的をはずした強盗団の一人を狙撃したが強盗団のリーダーは会議室にやってきた強盗団の一人に気が散って撃てなかった。強盗団のリーダーは人質の職員の女性に窓のシャッターを下させて人質の職員３０人にショットガンを向けて再び立てこもった。惑うウッド隊長はモバイルフォンでＢＡＵのエミリーに強盗団の情報関連を訪ねた。ＢＡＵのエミリーは歴代大統領のお面を被った強盗団ですが、中国系で銀行で強盗を繰り返した集団で中国政府と関係のないゴロツキと伝えた。強盗団のリーダーは職員の人質３０人にショットガンを向けて支店長はどこだと脅した。職員の人質一人は強盗団のリーダーの後ろから押さえようとしたが、振り払われて撃たれて倒れた。仕方なく支店長は現れて中国に多額の援助融資を支援し過ぎたのでローガン大統領に背いてIBRDの支店長に相談してみると伝えた。支店長はIBRDの支店長にモバイルフォンで連絡してみたが、避難していたために世界銀行の本部にいなかった。強盗団は支店長にIBRDの支店長に世界銀行の

本部に連れてくるように指示した。ウッド隊長は作戦でスティーブンとトニーがIBRDの支店長の付き人として囮になって世界銀行の本部へ向かった。強盗団のリーダーは連射式ショットガンに切り替えた。IBRDの支店長はIBRDの職員に扮したスティーブンとトニーを連れて会議室にやってきた。強盗団のリーダーはIBRDの支店長に銃を向けて、「その二人は誰だ！」と訪ねた。IBRDの支店長は、「私の部下ですよ！ パソコンを使って色々とサポートしてくれます」と応えた。強盗団のリーダーは強盗団の一人に付き人のスティーブンとトニーの持ち物を確認させた。そして、スティーブンとトニーにパソコンで香港支店に援助融資６００億ドルを送金させるように命じた。スティーブンはパソコンにＳＤカードを差し込んだ。強盗団のリーダーはスティーブンに、「なんだそれは！」と言った。スティーブンは、「YouTubeでよく見る猫ちゃん動画です」と言った。強盗団のリーダーは、「ふざけやがって！」と言って連射式ショットガンを向けたときにスティーブンが連射式ショットガンを押さえて上に向けた。トニーは床のショットガンを拾い、強盗団の一人がショットガンでトニーを撃とうとしたときに、ショットガンを蹴り飛ばして、強盗団の一人を撃って倒した。強盗団のリーダーにショットガンを向けたトニーは、「手に持っている連射式ショットガンを床に下ろせ！」と言った。強盗団のリーダーは連射式ショットガンを床に投げた。その隙にスティーブンは人質の職員３０人を会議室から解放させた。大統領のお面をはずした強盗団のリーダーは、「やっぱりSWAT隊か！ よくも騙したな！」と言った。スティーブンは床にある連射式ショットガンを拾おうとしたが、トニーの向けたショットガンを蹴り飛ばしてトニーの横腹を蹴ってスティーブンの腹を蹴って、床に投げた連射式ショットガンを拾ってスティーブンとトニーに連射式ショットガンを向けたが、そのときに会議室に入ってきたSWAT部隊が強盗団のリーダーをショットガンで撃とうとしたときに強盗団のリーダーがSWAT部隊を片っ端から撃っていって、会議室から外へ出ていった。強盗団のリーダーは非常階段で屋上へ上がっていって、屋上の扉のノブを撃って破錠して扉を開いて入った。強盗団のリーダーは物陰に隠れてモバイルフォンで仲間に電話をしてヘリの援護を頼んだ。SWAT部隊と警官隊は駆け付けると強盗団のリーダーを見つけ出して、「銃を下して速やかに出て来るなら撃たない」と言った。屋上に援護のヘリがやってきて、ヘリからマシンガンでSWAT部隊を撃っていった。ヘリがヘリポートマークに着陸してヘリから強盗団の３人が現れた。強盗団の３人は強盗団のリーダーを見つけて援護しながらヘリに向った。SWAT部隊は強盗団の３人と強盗団のリーダーにアサルト小銃で撃っていって、ヘリに乗り込もうとしたときに強盗団のリーダーの盾になった強盗団の３人を撃って倒した。強盗団のリーダーはヘリの操縦士にヘリを発進させた。イーサンはヘリの操縦士に狙撃銃で標準を合して撃って頭に命中したヘリの操縦士が操縦不能となった。危うくなる強盗団のリーダーはヘリから１０メートル下に飛び降りた。ヘリは回転しながら急降下して爆発した。スティーブン
とトニーは立ち上がった強盗団のリーダーに拳銃を向けた。スティーブンは強盗団のリーダーに、「おまえは何者なんだ！ なんのためにそんな真似してる？」と聞いた。強盗団のリーダーに、「俺は２年半前にスピーチ中のウィルソン州知事を暗殺しようとしたチャン・ウーの息子のムーヤン・ウーだ！ そして兄はエリート高校でカナダ留学生に拳銃乱射事件を起こして終身刑を食らったイーハン・ウーだ！ 悪い事をしたとはゆえ警官

に父と兄が重刑に処された。最初から先祖のいる中国に援助融資が止まったからじゃない。一部の警官に復讐したかった！」と答えた。スティーブンはムーヤンに、「おまえの父と兄は中国人の誇りを傷つけられてしてしまった！ だけど警官隊はやむをえずに抑えなければならなかった！」と言った。ムーヤンは、「俺は何人も人間を犠牲にしたから刑務所に行って処されるだけだ！」と言った。トニーは、「おまえはもう逃げられない」と言った。ムーヤンは、「俺は行く気などない」と言った。スティーブンは、「ならば腕ずくでも連れていく！」と言った。

スティーブンとトニーは銃を捨て格闘でムーヤンにかかっていった。トニーはテコンドーでムーヤンに立ち向かったが、ムーヤンの白鶴拳でかわされて横たわった。スティーブンはマーシャルアーツでムーヤンに立ち向かったが、ハイキックしようとしたときに片足立ちの鶴の形で蹴り上げられて気絶した。トニーはムーヤンに回し蹴りに手技に足刀でムーヤンの膝をつけさせてトドメを刺そうと踵落としをしようとした。トニーは舞鶴となったムーヤンが踵落としを鶴の拳で防いでトニーの体を鶴の嘴（ くちばし ）の拳で右に左に突いていって、顔を連発で突いていって、振り飛ばして気絶した。

ムーヤンは拳銃を拾って、スティーブンに拳銃を向けて撃とうとした。目覚めたスティーブンは、「やめろ！ ムーヤン！ そんなことをしていたらその辺のゴロツキと同じになる。おまえに銀行強盗で盗んだ金と警官殺し未遂について聞きたいことがある。復讐の念があってなら法廷に立って裁判官と陪審員に無実を証明してみろよ！ 汚名を被ってくたばる気か！」と言った。ムーヤンは、「口ほどにもない間抜けたちだ！」と言った。ムーヤンはスティーブンに向けた拳銃の引き金を引こうとしたときにイーサンがムーヤンの頭に標準を合した狙撃銃で撃ってムーヤンを倒した。ムーヤンのズボンのポケットからモバイルフォンが姿を現していた。スティーブンはそのモバイルフォンを拾って見ると、時限爆弾らしきスタートボタンが押されていて、残り５分を切ってカウントし始めていることに気づいた。スティーブンはトニーに、「大変だ！ 目を覚ませ！」と言って目覚ました。スティーブンとトニーは SWAT 部隊と警官隊に、「みんな逃げろ！ 銀行のどこかに時限爆弾が仕掛けられている。

ここから離れるんだ！」と言ってそこから避難させた。スティーブンとトニーと SAWT 部隊と警官隊は非常階段を急いで下りていって、世界銀行本部の入り口から外に出てときに会議室が大爆発した。MARS コロナウィルス感染症はアメリカの次に流行ったがオーストラリアの研究所でアルパカの抗体から摂取した大量の MARS コロナウィルスワクチンでアメリカと韓国の感染者が減少した。１０年前にロシアのスラヴ民族グリゴリー・サドルノフはダチのヴィンセント・ウォーカーと連んでスミス家にピザのデリバリを扮して届け出に入り、夫婦と子供たちを拳銃で撃って殺害して強盗に押し入り、貴金属と金庫の１０万ドルを奪って車で逃走していった。ニューヨーク郊外にある寂（ さび ）れた街のオートリーシティに隠れ家を置いたグリゴリーとヴィンセントは、ＦＢＩ国際捜査班にヴィンセントだけ住民に顔を知られていたためにグリゴリーはヴィンセントと分かれて隠れ家を離れて身分を知られないうちに偽造パスポートで飛行機に乗って韓国へ逃亡して身を隠した。グリゴリーは韓国までに来たＦＢＩ国際捜査班によって凶悪犯たちが収容される監獄島アルカトラズに護送された。グリゴリーはスミス家で殺害したときに使われた拳銃の弾がグリゴリーの持っていたトカレフＴＴ 33 の旧ソ連の軍

用自動拳銃と一致したためにヴィンセントと共犯者と判った。ヴィンセントの隠れ家を知ったＦＢＩ国際捜査班は、行方をくらましていたヴィンセントが賑やかなクラブで女とダンスしているのを見て近くに行くと、ヴィンセントがクラブの外へ出ていって、車で逃走した。ハイウェイをカーチェイスしてヴィンセントが乗った逃走車のタイヤに向けて銃で撃っていった。ヴィンセントの乗った逃走車はタイヤが破れて５回ほど横転した。ヴィンセントは運転席で頭から血まみれになって倒れていた。
１０年後に事故で意識不明だったヴィンセントは病院に運ばれて植物状態のまま１０年を経過した頃にフランス人の研究者がある装置を脳部に埋め込んで迷走神経に電気を流し込む刺激療法を毎日のように通い続けて昏睡状態から意識を取り戻した。フランス人の研究者がＩＤカードをかざして研究室のドアを開いて中に入ってきた。フランス人の研究者はヴィンセントに、「話はできるか？ 手は動かせる？」と尋ねた。ヴィンセントは、「お陰様で！ 奇跡しか思えん」と言って、「なぜ俺を助けた？」と聞いた。うなずくフランス人の研究者は、「私はあなたに脳科学の実験させてもらってたんだから感謝させてもらいたいところだ！」と答えた。ヴィンセントは、「私はある男の情報が知りたくて、ここから出たいんで出してくれ？」と聞いた。フランス人の研究者は、「それはできない。あなたが人殺しで聞いていた。話ができて手も足も動くなら明日でも警察に引き渡すつもりだ！」と答えた。
ヴィンセントはフランス人の研究者を掴んで逃げようとするフランス人の研究者の首を後ろから両腕で絞めつけて、「命の恩人だと思ったが、それじゃ死んでいたほうがましだ！」と言ってフランス人の研究者の首を絞めて息の根を止めた。ヴィンセントは横たわったフランス人の研究者のドクターコートの内ポケットからＩＤカードを奪って、研究者のドアを開いて外へ出ていった。ヴィンセントは病棟の警備に見つからぬようにして深夜の病院から抜け出していった。ヴィンセントはニューヨークダウンタウン病院の外科を出てワシントンスクエア公園へ向かった。ワシントンスクエア公園に着いたヴィンセントはモバイルフォンで電話している中年男が立っているのを見てゴミ箱にあった空き瓶を拾って、後ろから中年男の後頭部を空き瓶で殴って気絶させた。ヴィンセントは医療着を脱ぎ捨て中年男が身につけていた服に着替えてモバイルフォンを奪った。ヴィンセントはロシアンマフィアのドミトリーに電話をして、迎えに来てくれと頼んだ。ドミトリーはヴィンセントが生きていたことに驚いてワシントンスクエア公園にやってきた。ドミトリーはヴィンセントを車に乗せてボスのマイクのいるアジトへ向かっていった。ヴィンセントはドミトリーに、「グリゴリーはどこでどうしてる？」と聞いた。ドミトリーは、「グリゴリーは韓国でサツに見つかって、アメリカからやってきたＦＢＩ国際捜査班にアルカトラズに護送されたんだ！」と答えた。ドミトリーが運転する車は、夜景の綺麗なマンハッタンブリッジを渡って第１２埠頭にあるロシアンマフィアのアジトに着いた。車から降りたドミトリーとヴィンセントは、マルクの倉庫まで歩いていった。そこに居合わした長い白髭で中年男のマルクはヴィンセントに、「ヴィンセントか！ 生きていたなんて不思議な奇跡が起こるもんだな！」と言った。ヴィンセントは、「俺は早死にしたくはない。アルカトラズに服役しているグリゴリーをなんとか釈放してやりたいんだ！」と言った。マルクは、「そうだ！ そうだな！ わしにいい考えがある。おまえはサツに追われる身だ！ 見つかればグリゴリーと同じくアルカトラズに護送される」と

言った。ヴィンセントは、「どんな考えがあるんだ？」と聞いた。マルクは、「おまえは偽造のプロ！ ヴィンセント・ウォーカーは死んだことになってる。本名ダニール・イリ二フに戻すんだ！ そうすれば身分を隠せる。そしてローガン大統領の暗殺計画を予告した引き換えにグリゴリーの釈放を要求すればいい」と答えた。ヴィンセントは、「そりゃいい考えだな！」と言った。ニューヨークダウンタウン病院で看護婦がＩＤカードをかざして研究室のドアを開いたときに首を絞められて倒れているのを見つけた。警察に通報した看護婦は、やってきたニューヨーク市警殺人課のマテオ・ロペス刑事たちから事情を聞かれた。マテオ刑事は後からやってきたマテオの部下が昨日の深夜に中年男がワシントンスクエア公園で何者かに空き瓶で後ろから後頭部を殴られて服とモバイルフォンを奪って周辺に医療着を投げてあったと聞いてやはりヴィンセントが犯人で植物人間から蘇生して動き出したということかと思った。マテオ刑事は病院を離れて市庁舎を訪ねてヴィンセントについて調べたところ、８年前に臓器不全で亡くなってことになっていた。マテオ刑事は病院にヴィンセントの今までのカルテが存在しているのと内部情報によれば確かに研究室で療養中と記されていたことを疑問に感じていた。マテオは壮年男が奪われたモバイルフォンのＧＰＳ機能を使って捜索して夜景の綺麗な第１２埠頭にたどり着いた。倉庫まで来たマテオ刑事は片手に拳銃を持って一人で乗り込んでいった。銃を構えたマテオ刑事は倉庫から出て来たマルクに、「ここにヴィンセントという男は来ていないか？」と尋ねた。亡命したヴィンセントはマテオ刑事に、「銃を下ろせ！ 俺はここにいる。もうヴィンセントはいない。今はダニールだ！」と言ってマテオ刑事の後頭部に銃口を突きつけた。銃を下ろしたマテオ刑事は、「おまえがヴィンセントか！ 俺を殺したしてもすぐに警察とＦＢＩ捜査官などがおまえらを追ってくるだろう！ 巧妙な偽造でヴィンセントはこの世から消えたのか？」と聞いた。マルクは、「ダニールは偽造屋だ！ どんなことでもパソコンとプリンタがあれば偽造できるんだ！」と言って、わしらと手を組んで取引しないか？」と聞いた。マテオ刑事は、「なぜだ！ おまえらなんかと手を組む気などない」と答えた。マルクは、「それならこれを見ろ！」と言ってマテオ刑事にタブレットの映像を見した。その映像はマテオ刑事の家に覆面を被ったドミトリーたち３人が侵入してマテオ刑事の妻と子供３人を誘拐して腕と足をガムテープで縛って口にガムテープを貼り付けて、どこかに監禁した。マテオ刑事は、「なんで俺が来ることわかったんだ？」と聞いた。マルクは、「わしらは何人か汚職警官と提携している。サツの動きはすぐにわかる。ＧＰＳ機能でここにやってくることぐらいはわかっていた！」と答えた。マテオ刑事は、「わかった！ わかった！ 妻と子供たちに関係ないだろ！ そこから解放してくれ！」と言った。ダニールはマテオ刑事の後頭部から銃を下ろした。この件については口封じのために賄賂の４００００ドルをやるから可愛いベイビーたちにも内密にしてもらう」と言った。マテオ刑事は、「わかった！ 誰のも言わないと約束する」と言った。マルクは、「もしも約束を破ったときはおまえと可愛いベイビーたちの命はないと思え！」と言って計画的に倉庫内の裏にある部屋の中に監禁されていたマテオ刑事の妻と子供たちをマテオ刑事のところに解放した。マテオ刑事は妻と子供たちを抱きしめて倉庫から外へ出ていった。ダニールは倉庫から外に出てイースト川沿いを歩いていって、壮年男から奪ったモバイルフォンをイースト川に投げ捨てた。マイクにかかわってしまったマテオ刑事は車で妻と子供たちを家に送り返して妻と子供たちに、「このことは

誰にも言ったらダメだぞ！ パパと約束だ」と言って署へ戻っていった。ロシアンマフィアを牛耳るマルクと手下たちは、「まだサツにアジトはバレてない。明日の朝から計画を実行するぞ！」と言って、ウォッカを呑み比べして倒れ込むまで呑んだ。覆面を被ったマルクはローガン大統領に、「わしは北欧諸民族の種馬だ！ アルカトラズ島に服役してるグリゴリーを釈放させろ！ 明日までに釈放しなかったら、あなたを暗殺するだろ」と言ってワシントンD.C. 周辺地域に電波法を無視したテレビ放送を流していった。これをローガン大統領は身辺護衛のために、ホワイトハウスの片隅で冗談じゃない外交問題に困り果てた姿をニュースに取り上げられたが、無視することにした。宿舎からSWAT部隊をホワイトハウスへ派遣して内部周辺をそれぞれが位置についた。SWAT部隊は深夜０時を過ぎて、いつどこで敵が現れるか警戒していた。ホワイトハウスに左右から荷台のあるトラック２台が来て、荷台から覆面を被った男たちが旧ソ連軍用Kord重機関銃で外に護衛しているSWAT部隊をうつ伏せで撃っていった。外で護衛しているSWAT部隊は先の尖った特殊な弾で防弾チョッキを貫通して倒れていった。覆面を被った男たち３０人は、ホワイトハウスの表入口に乗り込んでいった。SWAT部隊はアサルト小銃で旧ソ連製のＰＫ機関銃を持って、乗り込んできた覆面を被った男たち３０人を撃っていった。SWAT部隊はアサルト小銃で覆面を被った男たち３０人を何人か撃っていったが、覆面を被った男たちのＰＫ機関銃で撃ってきた尖った特殊な弾が防弾チョッキを貫通して、何人か撃たれていった。SWAT部隊はほとんど倒れたが、覆面を被った男たちを２７人を撃って倒した。東棟の２階の隠れ部屋のある部屋でウッド隊長とスティーブンが護衛していた。残った武装集団の３人のうちのドミトリーはマルクとダニールに、「この壁の向こうに隠れ部屋がありそうだ！」と言ってＰＫ機関銃で撃ちかましていって、隠れ部屋のある部屋に手榴弾を投げ込んだ。ヘルメットをはずしたウッド隊長はスティーブンは隠れ部屋から秘密の扉を開いていったところの秘密の階段でローガン大統領を連れて東棟の１階まで下りていった。マルクたちは隠れ部屋のある部屋の中に手榴弾を投げて爆破して侵入したが、ローガン大統領の姿はなかった。ウッド隊長とスティーブンは東棟から走って連絡通路を渡って司令塔の出口から外へ出ていって、ローガン大統領を安全な場所に避難させてマルクたちに立ち向かっていった。ウッド隊長はマルクたちのトラックを奪ってトラックを走らせて外に出て来たマルクたちに突っ込んでいった。トラックの荷台に隠れていたスティーブンは、トラックを避けてうつ伏せ状態のマルクたちが立ち上がろうとしたときに右側にいたマルクとドミトリーをアサルト小銃で撃っていってから倒した。左側にいたダニールは、スティーブンにＰＫ機関銃で撃っていったが、荷台に伏せたスティーブンを遣れなかった。ウッド隊長はトラックから降りてアサルト小銃で撃っていったのだが、どこかへ逃げていった。ウッド隊長とスティーブンは最後に護衛した護送車でローガン大統領の暗殺を抑えた。ＢＡＵのジョンはホワイトハウスの侵入した武装集団を調べたところでロシアンマフィアと判った。ダニールはマイクとドミトリーが遣られて激怒して周りがパニックになった。ダニールはマルクの代わりにボスとなって第１２埠頭の倉庫にロシアンマフィアの手下の３９人を集めてアルカトラズ島に服役してるグリゴリーを脱獄させる陰謀を企てた。ダニールを率いるロシアンマフィアは、カリフォルニア州サンフランシスコから離れたアルカトラズ島へ屋根付きの荷台のあるトラック３台に乗り込んで向かっていった。ロシアンマフィアの

４０人はサンフランシスコに４日かけてたどり着いて海峡の船乗り場に行くと、乗客たちを降させて乗っ取った大型クルーザーに乗り込んでいって、反逆者のダニールがＰＫ機関銃で船長を脅してサンフランシスコ湾にあるアルカトラズに向かわせた。ワシントン D.C. のＦＢＩ本部から宿舎にいる SWAT 部隊に非常事態出動を数名選ばれた。直ちに出動した SWAT 部隊は、輸送ヘリに乗ってアルカトラズ島へ向かっていった。アルカトラズ島に着いたロシアンマフィアの４０人は監獄島アルカトラズから護衛している刑務官たちがやってきて、機関銃を撃ってくると片っ端から撃っていった。アルカトラズ島に乗り込んだロシアンマフィアは連邦刑務所まで来て、ゲートがロックされた塀の高い連邦刑務所に入るのは容易じゃなかった。ダニールは、「了解だ！ そろそろ約束の時間になる」と言って、ダニールから賄賂を受け取ったロシア空軍パイロットのイヴァンを呼んでいた。予定より遅れてきたイヴァンの操縦する Mi-24 の攻撃ヘリコプターがアルカトラズ島に現れた。イヴァンはロシアンマフィアを機関銃で撃ってる刑務官たちを機関砲で撃っていった。イヴァンは連邦刑務所のゲート前までに降り立ってロケット弾を２発撃ってゲートを破壊した。ロシアンマフィアは連邦刑務所に侵入していって、機関銃で撃ってくる刑務官を撃っていった。SAWT 部隊は６時間位でサンフランシスコ湾にたどり着いて、アルカトラズ島にパラシュートで降り立った。イヴァンはヘルメットを被らない SWAT 部隊に向けて機関砲で撃っていった。散らばった SWAT 部隊の一人は、低空飛行でイヴァンの操縦する攻撃ヘリにロケットランチャーでロケット弾を発射して撃破した。ロシアンマフィアはグリゴリーを探しに散らばっていった。SWAT 部隊は連邦刑務所に入ると、それぞれが散らばっていった。グリゴリーを見つけたダニールは、檻の中でオレンジ色の囚人服を着て壮年になったグリゴリーに問いかけた。ダニールはグリゴリーに、「おい！ 久しぶりだな！ 俺のこと覚えてるか？」と聞いた。グリゴリーは、「覚えてるさ！ 同じムジナだからな」と答えた。ダニールは、「そうだな！ 名を元に戻した。今はダニールだ！ おいっ！ そこを離れろ！」と言ってＰＫ機関銃を檻の鍵穴に向けて撃って施錠した。ダニールは鉄格子の扉を開いてグリゴリーを連れて脱獄をはかった。SWAT 部隊はロシアンマフィアにアサルト小銃で撃って、ロシアンマフィアは SWAT 部隊にＰＫ機関銃で撃ってを繰り返した。リチャードはロシアン相撲であるサンボの達人のヴィクトルとばったり遭遇してアサルト小銃で撃とうとしたときに、腕を取られてアサルト小銃を奪われて無防備な力で気が混乱した。リチャードは体格いいヴィクトルとマーシャルアーツで格闘した。本能の騒ぐ囚人たちは、「やっちまえ！ 檻から出せ！」と喚いた。リチャードはヴィクトルに立ち向かっていったが、首を持ち上げられてはらい飛ばされて背負い投げで投げられて巴投げされて、立ち上がると腕を取られないように払って立ち向かっていって、カウンターに入って顔面を殴って回し蹴りしていって、ヴィクトルを蹴り上げて倒した。リチャードは立ち上がって床の落ちたアサルト小銃を拾おうとしたときに、立ち上がったヴィクトルにＰＫ機関銃で背後から撃たれそうになったが、ヴィクトルの背にアサルト小銃で３発撃ったスティーブンのお陰で絶体絶命を助けた。リチャードはスティーブンに、「助かった！ 名前なんて言います？」と聞いた。スティーブンは、「アレックスです！」と答えた。リチャードは、「隊長ですか！」と言って分かれていった。ダニールはグリゴリーを連れて連邦刑務所の屋上に上がってきた。屋上に駆け付けてきたウッド隊長はアサルト小銃を向けたダニール

に、「動くな！　ＰＫ機関銃を捨て両手を挙げろ！」と言った。ダニールは後ろを振りかるとウッド隊長にＰＫ機関銃を放っていった。ウッド隊長はすぐに伏せるとドラム缶に隠れて、アサルト小銃でダニールを撃っていった。後で駆け付けてきたSWAT部隊はダニールとグリゴリーに狙いつけてアサルト小銃を向けた。ダニールとグリゴリーは一緒に海へ飛び降りていった。SWAT部隊はアサルト小銃を海に向けてぶっ放していったが、ダニールとグリゴリーは水面に浮かび上がらなかった。屋上にやってきたロシアンマフィアの手下はSWAT部隊はSWAT部隊にＰＫ機関銃で撃っていったが、SWAT部隊の特殊な弾を通さない防弾チョッキを着用していたことでアサルト小銃の弾を浴びて倒れていった。スティーブンは屋上から階段を下りてきた残りのロシアンマフィアの手下をアサルト小銃で撃っていって、倒した。ダニールとグリゴリーは海の上で仰向けになっているところを助けられた。クリスマスイブ、ダニールとグリゴリーは第１２埠頭の倉庫でウッド隊長とスティーブンにマルクとドミトリーの敵討ちしようと陰謀の罠を企てた。真夜中に休んでいるリチャードはいきなりモバイルフォンが鳴り出した電話をとった。マテオ刑事はリチャードに、「元気してた？　ウッド隊長とスティーブンを知ってるか？」と聞いた。リチャードは、「ウッド隊長は知ってる！」と答えた。マテオ刑事は、「今からウッド隊長に第１２埠頭の倉庫Ｂに来てもらうように伝えてくれないか？」と聞いた。リチャードは、「なぜウッド隊長を呼ぶんだ！」と答えた。マテオ刑事は、「ウッド隊長は連邦刑務所でダニールとグリゴリーを海岸に追いやったんだろ！　そのときの事情を聞きたい」と言った。リチャードは、「わかった！」と言った。リチャードは電話を切ってこないだ知ったウッド隊長の部屋へ行った。リチャードはスティーブンに、「ウッド隊長！　ニューヨーク市警のマテオ刑事から電話があって第１２埠頭の倉庫Ｂに来てほしいそうです。どうやらロシアンマフィアのアジトが見つかったらしい！」と言った。スティーブンは、「了解！　じゃあ向かうよ！」と言って、ＦＢＩ本部から外に出て赤いドゥガティに乗って、第１２埠頭の倉庫Ｂへ向かっていった。スティーブンは満月の夜に犯罪が起きている嫌な予感を感じながらマンハッタンブリッジを抜けていって、３時間４５分をかけて第１２埠頭に着いた。スティーブンは赤いドゥガティを停めて倉庫Ｂへ向かった。倉庫Ｂに入ったスティーブンは、「マテオさん！」と呼んで、真っ暗な倉庫内に置いてある警棒ライトを付けて歩いていった。スティーブンは歩いた途中で後ろ姿でイスに座っている男を見て、「マテオさん！」と呼びかけた。するといきなり照明の明かりが付いてイスに座っている男が頭から血を流して殴り殺されていることに気づいた。そのときにマテオ刑事と警官隊が現れた。マテオ刑事はスティーブンに、「ウッド！　おまえをエドガー議員の殺人容疑で逮捕する」と言った。血の付いた警棒ライトを見て驚いたスティーブンは、警棒ライトを投げて倉庫の外へ逃げていった。焦ってヘルメットをかけずに赤いドゥガティに乗って突っ走っていった。パトカーが追ってくるなかでマンハッタンブリッジを渡っていった。暴走するスティーブンはマンハッタンブリッジを渡った途中で、ダニール率いるロシアンマフィアの手下８人が車２台を止めて通行妨害して、前方の道が塞がれていた。追い詰められたスティーブンは、赤いドゥガティーを止めて後方からパトカーがやってきて、降りてきた警官隊に包囲された。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に板挟みされて赤いドゥガティから降りた。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に銃を向けられて追い込まれた。スティーブンはマテオ刑

事に、「どうしてだよ！ ロシアンマフィアがいるのに何もない顔をして、何者かが影で操っているんだろうな！」と言った。マテオ刑事は、「うるさい！ 無駄な抵抗だ！ 潔く観念しろ！」と言った。マテオ刑事は、「よし！ 引っ捕らえろ！」と言った。絶体絶命のスティーブンはマンハッタンブリッジの柵を越えてイースト川へ飛び降りた。危機一髪で助かっていたスティーブンはイースト川を泳いでいった。ロシアンマフィアの一人はマテオ刑事に、「あいつ行きやがった？」と聞いた。マテオ刑事は、「ここから飛び降りた者はほとんど助からない」と答えた。
スティーブンは後方からやってきた水上警察の船から逮捕する権限のない沿岸警備隊に助けられた。
沿岸警備員にSWATの金色のバッチを見せたスティーブンは、沿岸警備員からモバイルフォンを借りてウッド隊長に電話をかけて呼び出した。スティーブンはウッド隊長に、「エドガー議員が殺されてると知らずに汚職警官から第１２埠頭の倉庫Ｂに呼ばれてハメられました。汚職警官とロシアンマフィアが連んでいた！ 板挟みに追い込まれてマンハッタンブリッジから飛び降りたところ沿岸警備隊に助けらました。黒幕が見えたのでダニールたちのアジトと思える倉庫Ｃに向かいます！ このままでは濡れ衣を着せられてパクられそうです至急応援を願う！」と言って、電話を切った後で沿岸警備員にモバイルフォンを返した。リチャードはウッド隊長のこと気になって、第１２埠頭の倉庫Ｂの近くまで車で来た。何か心配になって、倉庫Ｂへ歩いて向かって倉庫に入った。リチャードは、「ウッド隊長！」と呼んで倉庫を歩いて進んでいったら、後ろ姿で座ってる男が血塗れ頭で殺されたエドガー議員であると知って驚いた。倉庫Ｂから外に出たリチャードは倉庫から人声が聞こえて倉庫Ｃに侵入して物陰に隠れた。リチャードは、「マテオじゃないか！ なんでここにいる！」と呟いてマテオ刑事とロシアンマフィアの密会したやり取りを目撃した。ダニールはマテオ刑事に、「ウッド隊長は遣ったのか？」と聞いた。マテオ刑事は、「あぁ！ マンハッタンブリッジから飛び降りた！」と答えた。リチャードはこの密会したやり取りをタブレットで録画していた。リチャードはロシアンマフィアの一人に見つかって頭に銃を突き付けられてタブレットを奪われた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの頭に銃を突きつけたまま歩いてダニールのところに連れてきた。ダニールはリチャードに、「ウッド隊長を追ってきたのか？ おまえもSWAT部隊の一員か？」と聞いた。リチャードは、「マテオに野暮用があってきただけだが！」と答えた。ダニールは、「なんでタブレットで録画していた？」と聞いた。リチャードは、「倉庫Ｂでエドガー議員が殺されていた。てめいらがグルって、デマカセで罪のない人間を滅亡にやってるんだ！」と答えた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの後頭部を殴って、床に跪（ ひざまず ）けさせた。グリゴリーはロシアンマフィアの一人からタブレットを鉄柱にぶつけて破壊して床に落として踏みつけた。グリゴリーはダニールに、「これで証拠は隠滅したぞ！」と言った。ダニールはマテオ刑事に、「マテオ！ こいつを撃て！」と言って銃を渡した。マテオ刑事は、「あんた気は確かか？ こいつは俺のダチで幼い頃から培ってきた親友だ！」と言った。ダニールは、「だからなんだ！ まじめなのに可哀想に！」と言った。裏切りのマテオ刑事はリチャードに銃を向けた。リチャード刑事はなんでこんなに腐ったハイエナたちと手を組んだ？」と聞いた。マテオ刑事は、「妻のローザと息子と娘を誘拐されて妻と子供たちを解放させる条件で仕方なく賄賂を取っ

て契約した。侵害する嫌がらせの絶えない世の中だよ！ 起動が良くなったときに何もかもに見捨てられたら冗談にすぎない！」と答えた。リチャードは、「長い間ダチと思っていたが、もう親友じゃない。人生は転けるときたもんだ！ さっきのタブレットで録画したやり取りはもうすでにツイッターに流してる。真実は言い逃れない。ムショで反省して出所したら田舎にでも帰って農場で牛の世話でもしたらどうだ！」と言った。マテオ刑事は、「リチャード！ おまえは家柄も顔立ちもよく裕福に育って羨ましかった！ 幼い頃せっかく来てくれた女の子ティナに、『一緒に行こう！』と言ってどこかへ連れていったことがあった！ ごめん！ リチャード！ 今の俺に家族が大事なんだよ！」と言って、リチャードの頭に向けた銃の引き金を引こうとした。リチャードは、「やめろ！ マテオ！ おまえは人間のクズと一緒になりたいのか？」と聞いた。マテオ刑事は、「うるさい！」と言ってリチャードを撃とうとしたときにスティーブンがマテオ刑事に銃を向けて現れた。気を取られたマテオ刑事はリチャードを撃てなかった。ロシアンマフィアとスティーブンは物陰に隠れながら撃ち合いになった。リチャードとマテオ刑事を率いる警官３人は物陰に隠れた。途中からウッド隊長と格闘家のレオナルドとトニーが駆け付けてきた。ロシアンマフィアの手下７人を撃って倒したが、トニーが胸を撃たれて横たわった。ダニールとグレゴリーは倉庫Ｂへ逃げていった。スティーブンとウッド隊長とレオナルドはダニールとグリゴリーを追っていった。スティーブンとウッド隊長は倉庫Ｂに入ってダニールを見つけた。ダニールはスティーブンに、「ウッド隊長はやっぱり生きていたのか！ そんな猿芝居は通じない。おまえはスティーブンだろ？」と聞いた。スティーブンは、「そうだ！ 俺がスティーブンだ！」と答えた。ダニールは、「よくもマルクとドミトリーをやってくれた！」と言ってスティーブンを銃で撃とうとした。ウッド隊長はダニールに、「ウッド隊長はこっちだ！」と言ってダニールの持った銃を蹴り飛ばした。スティーブンは、「醜いブタ！」と言ってダニールの胸と腹に５発撃って頭に１発撃ってダニールを倒した。レオナルドは倉庫Ｂに入ったらフィリピン武術のカリスティックの使い手のマルコヴィチがカリスティック２本を持って現れた。レオナルドは銃弾の切れたライフルを投げ捨てカリスティックを振り回してるマルコヴィチに合気道で立ち向かっていった。レオナルドは左右に手刀打ちで攻撃していったが、マルコヴィチにカリスティックで横腹と背中を打たれて気を取り直して集中力を高めた。マルコヴィチはカリスティックを振り回して、レオナルドを左右に攻撃しようとしたが、レオナルドに顔３回蹴られて鉄槌打ちで打たれて入身投げで投げられて背中から床に落ちたときにカリスティックを手放して、立ち上がると四方投げで放り投げ上げられて棚にぶつかって、倒れた棚の下敷きになった衝撃で倒れた。スティーブンとウッド隊長はグリゴリーが倉庫Ｂから外へ出ていって、コンテナの並んだ場所に入っていったのを見てコンテナの並んだ場所に警戒して追跡した。スティーブンとウッド隊長とコンテナの角に隠れて銃で撃ち合った。反対から回り込んだウッド隊長はグリゴリーに、「動くな！ 銃を捨て両手を挙げろ！」と言った。グリゴリーは速やかに銃を捨て両手を挙げた。グリゴリーは近づいてきたスティーブンに、「俺はムショに戻りたくない。こじつける屈辱を帯びた生活していた」と言った。リチャードは、「関係ない！ 鉄格子が似合ってるぞ！」と言ってウッド隊長が手を下させて後ろから両腕に手錠をかけようとした。グリゴリーは、「あのときマルクと会わなかければ良かった！ またムショに戻る訳にはいかない」

と言ってスティーブンが持った銃を抑えてウッド隊長の腹を蹴って銃を右に避けたときにスティーブンの引き金を引いた銃弾がウッド隊長の肩をかすった。スティーブンはグリゴリーに抑えられてる銃を空へ向けて何発か撃った弾切れの銃を奪われた。ウッド隊長は肩から血を流して横たわった。グリゴリーはスティーブンを撃とうとして引き金を引いたが、弾が切れていた。銃を捨てたグリゴリーはスティーブンと格闘をした。グリゴリーはスティーブンの顔をパンチしようとしたが、スティーブンにかわされて胸をパンチされた。グリゴリーはスティーブンに回し蹴りしていって、スティーブンにかわされて肘で右足を打たれた。怒ったグリゴリーは右足を引きずりながらスティーブンの右足を痛めてない左足で５回ローキックして、顔にハイキックして、スティーブンが横たわった。立ち上がるスティーブンは、後ろから固技で首を絞められたグリゴリーの腹の２回パンチして顔をパンチしてグリゴリーを解き払った。スティーブンはグリゴリーの腕を取って固めて腹をなんどもキックしていって、正面から３回ハイキックしていった。鼻から血を流したグリゴリーはスティーブンにパンチしようとしたが、かわされて右足で腹を蹴られて倒れた。スティーブンはウッド隊長に、「大丈夫ですか？」と言ってウッド隊長を立ち上げて肩を組んだ。ウッド隊長は、「俺は大丈夫だ！ それよりトニーのほうが心配だ！ と言ってトニーのところへ向かった。リチャードはマテオ刑事と警官二人と撃ち合って、警官二人を撃って倒した。銃弾が切れたマテオ刑事は、降参してリチャードのところに現れた。リチャードはマテオ刑事に銃を向けたまま、「なんで賄賂なんか取ったんだ！ そこが甘かった！」と言った。マテオ刑事は、「ちょうど金に困っているときだったから金が必要だった！」と言った。リチャードは、「おまえは所詮サツの犬だ！ 骨の髄まで洗い流せ！」と言ってマテオ刑事を撃てず銃を下ろした。リチャードはマテオ刑事を連行して倉庫Ｃから外に出て、パトカー３台のところに連れてきた。ニューヨーク市警の刑事課長はマテオ刑事に、「尻尾を巻いて出てきよったか！ なんで正義が信用問題に欠けることをした？」と聞いた。マテオ刑事は、「自分が悪い訳じゃありません！ 悪いのはロシアンマフィアなんです！」と答えた。刑事課長は、「とぼけるな！」と言った。向こうから痛々しげなグリゴリーは、「おい！ 待つんだマテオ！ おまえは俺たちと一緒に行け！」と言ってトカレフの銃でマテオ刑事を３発撃って道連れにした。警官隊は最後の一撃でグリゴリーを５発撃っていって、グリゴリーを倒した。リチャードはマテオ刑事に、「おい！ しっかりしろ！」と言ってマテオ刑事を揺さぶった。マテオ刑事は、「おまえに人生最後まで勝ちたかった！ だが俺のほうが先に結婚できて家族を持ったから勝ったんだ！」と言ってリチャードの腕に支えられて息を引き取った。SWAT 特殊ヘリに重症のトニーを運んでから乗り込んだスティーブンとウッド隊長とレオナルドはクリスマスの夜景にクリスマスツリーの見える街を眺めて、ワシントン D.C. の SWAT 本部まで向かっていった。３ヶ月後、ウッド隊長はすっかり権威を失うところだったが、傷を癒して回復した。トニーは無事に蘇生して回復した。レオナルドは SWAT 本部に常駐していたが、ロス市警のリトルトーキョー署へ戻っていった。リチャードスティーブンに、「ウッド隊長！ 第１２埠頭にヘルメットを忘れてましたよ！」と言ってヘルメットを渡した。スティーブンは、「ありがとう！ これで引退だ？」と聞いた。リチャードは、「そうですね！ 任期１０年でした」と答えた。ニューヨーク市警から SWAT 本部まで赤いドゥカディが戻ってきた。３月２７日にリチャードとルーシーは SWAT 部隊の仲

間を集めて教会で挙式した。スティーブンは外で、その様子を眺めていた。エイプリルフールの日に引退したリチャードは宿舎でスティーブンに、「どうして挙式に来てくれなかったんですか？」と聞いた。スティーブンは、「任務が入ってしまってごめんなさい」と答えた。リチャードは、「自分はロス郊外に移住してマーシャルアーツ道場を開くんです」と言った。スティーブンは、「いいですね！」と言った。リチャードは、「引っ越しが忙しいんで！ じゃあ！ また会える日を！」と言った。スティーブンは、「それじゃあね！ また会おう！ 幸運を祈ってる」と言った。リチャードと別れたスティーブンは、赤いドゥガティに乗ってエイムズ研究センターへ向かっていった。スティーブンは降りた赤いドゥガティを駐輪場に置いてエイムズ研究センターに入って受付を通してギルバート博士を呼んでもらった。スティーブンはギルバート博士が受付にやってきて、望遠鏡のある天文台にエスコートしてもらった。ギルバート博士はスティーブンに、「この１年でリチャードに会えた？」と聞いた。スティーブンは、「会えて親しくなれた」と答えた。スティーブンは、「だけど父さんに会うためにSWAT部隊に入ったけど、なんども死に目にあった！」と言った。ギルバートは、「それはこの世に生まれてくることなく存在がなくなってしまうとこだった！」と言った。スティーブンは、「自分は未来に戻ります！ それじゃあ！ グッドラック！」と言って宇宙服を着てヘルメットを被って２０３５年４月３日の１２時２０分に設定した。ギルバート博士は、「グッドラック！ 未来の私にもよろしくいっといてくれたまえ！」と言った。スティーブンは、「鍵を忘れた！」と言ってギルバート博士に投げ渡して時空転送の門をくぐっていった。三次元装置は三次元トライアングルから四次元スクエアに切り替わって、時空をさまよい二つの小さい銀河同士が衝突して光まで飲み込む大きなブラックホールが出来た。スティーブンはボール状のカプセルに入ると、体がちぎれるような思いをして大きなブラックホールに吸い込まれていった。別の離れた一点に直結した異次元空間に入ってトンネルのような抜け道を抜けていった。異次元空間から落ちてスティーブンはカプセルから出て時空転送の門をくぐり抜けた場所がどこかの惑星だった。スティーブンはもはやこれは時空転送の門じゃなくて、スペースステーションゲート（ 宇宙の扉 ）をくぐり抜けてきたんだと思った。スティーブンのところにひょろ長いパピュラス星人の二人がやってきた。パピュラス星人の一人はスティーブンに、「おまえ地球人か！」と言ってレーザー光線銃を向けた。ここがパピュラス星と気づいたスティーブンは、「そうだけど！ ステーションゲートくぐったら、なぜかここにやってきた」と言った。レーザー光線銃を下ろしたパピュラス星人の二人は、スティーブンを捕らえて宮殿まで連れていった。パピュラス星人の二人が連れてきたスティーブンをグード王の場所まで連行してパピュラス星人の二人が戦闘モードのトカゲのような顔になった。太った人間のような顔したグード王はスティーブンに、「パピュラス星へようこそ！ 何が目的でやってきたのか？」と聞いた。スティーブンは、「地球にパピュラス星人の妹いて、背の高さと爬虫類のトカゲのような肌が治って地球で早く年をとらない薬があれば欲しいと願って宇宙を目指した」と答えた。グード王は、「ほおっ！ 海王星に水晶のクリスタルがある。それを肌にすり当てるだけでたちまちに地球人らしくんなるはずだ」と言った。スティーブンは、「どうしたらその星に行ける？」と尋ねた。グード王はパピュラス星人の一人に、「この地球人は地球にパピュラス星人の妹がいるのだ！ 海王星まで宇宙船に乗せていってやれ！」と言った。

パピュラス星人の一人は、「わかりました」と言って、一緒に宮殿から外に出てスティーブンを宇宙船まで連れていった。パピュラス星人の一人はスティーブンを宇宙船まで連れてきて、宇宙船にスティーブンを乗せて離陸していった。宇宙船はぎりぎり太陽系に入ってくると、黒い物質で少し途切れた６本のリングがある第八惑星の海王星へ向かっていった。宇宙船はダークマター（ 暗黒物質 ）を避けていくと、氷惑星の青い海王星に着陸した。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宇宙船から出てマイナス２２０度の極寒で防寒モードボタンを押して宇宙服を暖めて強い磁場のあるダイヤモンドの平原を歩いていった。スティーブンはダイヤモンドの雹が降り出して、急いで金属化した一部が氷山に繋がった道を歩いていって、ダイヤモンド海に浮かぶ氷山に登っていった場所でダイヤモンドよりも六角柱状の自然の作り出した結晶体で美しい輝きを放ったクリスタルを見つけ出した。スティーブンは手のひらサイズの硬くて衝撃に強くて傷つかないし息をかけても曇らないクリスタルを特殊合成された袋に入れた。スティーブンとパピュラス星人は氷山を降りたところの金属化した道で宇宙盗賊団の横太いペルサイナ星人と遭遇した。ペルサイナ星人はスティーブンに、「そのクリスタルはペルサイナ星の大事なエネルギー物質となる資源なんだ！ それを渡すんだ！」と言ってスティーブンに冷凍銃を向けた。パピュラス星人は戦闘モードでトカゲのような顔になって、レーザー光線銃でペルサイナ星人を攻撃していった。ペルサイナ星人は戦闘モードでカエルのような顔になって、冷凍銃でパピュラス星人に攻撃していった。ペルサイナ星人はパピュラス星人とスティーブンが逃げていくなかで氷というよりダイヤモンドで出来た平原を冷凍銃で破壊していった。パピュラス星人とスティーブンは金属化した岩に隠れたが、パピュラス星人は冷凍銃の攻撃を受けていって、金属化した岩が溶けていくまで冷凍銃の攻撃を受けてないところの金属化した岩の隅からペルサイナ星人のところにプラズマ手榴弾を投げて爆発してペルサイナ星人が横たわった。冷凍銃の攻撃を防ぐパピュラス星人は立ち上がるペルサイナ星人をレーザー銃で撃っていってから倒した。パピュラスとスティーブンは時速２４００キロで嵐の竜巻が近づいてるのが見えると、急いで宇宙船に向かった。パピュラス星人とスティーブンは宇宙船に乗り込んで離陸したが、嵐に飲み込まれていった。宇宙船は嵐をものともしないで海王星から離れていった。スティーブンは防寒モードを解除して宇宙船の窓を眺めながら今の技術で地球から太陽系の外に行くことが到底不可能と思った。宇宙船は小惑星（ コスモ ）から抜けてきて、パピュラス星人にたどり着いた。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宮殿に着いてグード王と会った。スティーブンはグード王に、「クリスタルを得ることできました。ありがとう」と言った。グード王は、「いつか地球が太陽系の外に行ける日がきたらいいな」と言った。宮殿の外
に出たパピュラス星人とスティーブンは時空転送の門の場所まで行った。スティーブンはパピュラス星人に、「助けてくれてありがとう」と言って時空転送の門をくぐろうとして止まった。スティーブンは、「地球で元の世界に戻るつもりだったがパピュラス星人にやってきた。どうすれば戻れる？」と聞いた。パピュラス星人は三次元装置のスイッチを切り換えて、三次元装置が四次元スクエアから三次元トライアングルに切り替わると戦闘モードのトカゲのような顔から人間のような顔に戻した。
パピュラス星人は、「三次元装置のスイッチが切り替えられていたからだ！」と言った。

スティーブンは、「そうかギルバートさんが仕組んでいたか！ 今度こそ地球に戻る！ それじゃあ！」と言った。
パピュラス星人は、「あと違う国に行った場合はこのボタンで行きたい国の頭文字を設定するんだ」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐってきて、楽園の泉と呼ばれている宇宙（ 軌道 ）エレベーターの静止軌道ステーションにいることに気づいた。スティーブンは、「パピュラス星に行けるスペースステーションゲートとして誰かが設置した」と言って、三次元装置にアメリカ（ 亜米利加 ）の米国の（ 米 ）に切り換えて、時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐっってきて、宇宙エレベーターに着くと、１年の時を過ぎていたけど、今度こそエイムズ研究センターにたどり着いた。
スティーブンはヘルメットをはずして宇宙服を脱いでギルバート博士のいる天文台の隅にある研究所に行った。研究所にいるギルバート博士はスティーブンに、「無事に戻ってこれたのかスティーブン！ 君の生まれる前の世界どうだったかね？」と聞いた。スティーブンは、「若き父さんに会うためにSWATに入隊してから悲惨なことばかりで、この世に存在がなくなるとこだった！ でも若き父さんと会えた」と答えた。ギルバート博士は、「若き父さんと会えてどうだった？」と聞いた。スティーブンは、「勇敢でたくましかった！ ウッド隊長を偽った身がバレず親しくなれた」と答えた。スティーブンは、「宇宙にも行けたよ！ 三次元装置と四次元装置の切り換えスイッチのことは知っていたんじゃないですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「だから若かれし私に会ったら、『ワームホールは存在すると伝えてほしい』と言っておいたんだ！ 若かれし私はスイッチに気づくことを分かっていた。先に宇宙へ行っていたら１年も時空を越えて設定の年号日時に行けなかっただろう」と答えた。NASAの宿舎に戻ったスティーブンは翌朝に目が覚めて外に出てタクシーに乗ってワシントンダレス国際空港へ向かっていった。空港の着いたスティーブンは、ワシントンダレス国際空港からロサンゼルス国際空港まで飛んでいった。空港に着いたスティーブンは、車で迎えに来ていたリチャードと会うと車に乗ってロス郊外にある実家まで走っていった。車中でリチャードはスティーブンに、「無事に戻れて良かった！ 若きわしはどうだった？」と聞いた。スティーブンは、「ワイルドハントだったよ！ SWAT部隊に入隊して父さんに会うことができた！」と答えた。リチャードは、「ロシアンマフィアのアルカトラズ島から脱獄計画を抑えるために動いたSWAT部隊のチームに選ばれたのか？」と聞いた。スティーブンは、「選ばれてアルカトラズへ向かった！ 訓練のときから出会っていたウッド隊長は似てなかったよ！ ウッド隊長のお陰で色々と命拾いをしたな！」と答えた。
リチャードは、「わしのときは他の隊長で入れ替わりが多くてウッド隊長のことよく知らないでいたからな！ ウッド隊長は命を救ってくれた。あれはもしかしてウッド隊長を偽ったスティーブンだったのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうだ！ 本当のウッド隊長は俺より背が高くてインテリだから」と答えた。リチャードは、「あ！ あの人がウッドだったのか！」と言った。スティーブンは、「それとパピュラス星なんかの宇宙に行けた」と言った。リチャードは、「そうか！ それは大冒険だった！」と言った。リチャードとスティーブンの乗った車はＬＡ郊外の実家に着いた。リチャードとスティーブンは車から降りて家に入っていった。夕食の準備ができた食卓でリチャードとルーシーとス

ティーブンとキャメロンは４人そろって話をしながら食事した。キャメロンはスティーブンに、「スティーブン兄さん！ 薬ぼお土産はあるの？」と言った。スティーブンは、「あるよ！ こないだ俺と同じ年ぐらい成長してたからだったんで俺より年をとってほしくないと思って頑張った！ 海王星の氷山でクリスタルを採ってきた。これ以上は成長しないでトカゲのような肌が治って人間と同じように年をとっていく薬だからな」と言って特殊合成された袋からクリスタルを取り出してキャメロンに手渡した。キャメロンは、「ありがとう！ 海王星に行けたなんてすごいな！ どうやって行けたの？」と聞いた。スティーブンは、「時空転送の門からパピュラス星に行けてパピュラス星人に協力を受けて海王星にたどり着けた」と答えた。ルノー家は夕食の後でテレビを見たら、それぞれが部屋へ戻っていった。

ヒューマンレッドアイズの殲滅

スティーブンは久しぶり家族が揃って食事をした後で部屋に戻った。スティーブンはベッドの上に座って忍者の勇斗のことを思い出した。２０１６年４月４日のエイムズ研究センターでスティーブンはギルバート博士に、「またロスへ帰るまでに時空転送の門をくぐりたいんだよ！」と言った。ギルバート博士は、「今度はどこ行く気かね？」と聞いた。スティーブンは、「日本です！ モンスターを殲滅した忍者たちに会いたい」と答えた。ギルバート博士は、「いつもは姿を隠して生活している忍者たちに会ってどうするんだ？」と聞いた。スティーブンは、「カリフォルニア州で起きてる目の赤いＨＲＥ感染者の繁殖を抑えることに協力してもらいたい」と答えた。ギルバート博士は、「彼らが応じてくれるといいがな！」と言って時空転送の門と三次元装置を起動させた。スティーブンは、「パピュラス星人から教わった行きたい国の頭文字を設定すれば行きたい国に行ける。日本は和国なので和だ」と言って設定した。ギルバート博士は、「モンスターを倒した忍者がいたのは２０１４年２月２２日までだった！」と言って年号月日を２０１４年で今から２ヶ月前の２月４日に設定した。スティーブンは、「宇宙に行かないのだから宇宙服はいらないぞ」と言った。ギルバート博士は、「そういうことだ！ また年号月日を２０３５年４月３日１２時３０分と設定して米国の頭文字の米を設定するの忘れずにな！」と言った。スティーブンは、「そうだった！」と言った。ギルバート博士は、「無事に帰ってくること祈って神の御加護を！」と言った。スティーブンは、「じゃあ！ いって参る！」と言って時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐり抜けて、通過して相生勇斗（ あいおいゆうと ）の住むマンションの屋上に着いた。スティーブンは屋上の扉を開いた勇斗と恋人の川村沙織（ さわむらさおり ）に出会った。勇斗はスティーブンに、「もしかして時空転送の門をくぐってきた？」と聞いた。スティーブンは、「そうだけどね」！」と答えた。勇斗は、「どこからやってきた？ 未来からか過去からか？」と答えた。勇斗は、「俺は勇斗で彼女は沙織だ！ 外国から来るなんて！」と言った。スティーブンは、「行きたい国の頭文字を設定した」と言った。勇斗は、「誰から知った？」と聞いた。スティーブンは、「パピュラス星人！」と答えた。勇斗は、「パピュラス星人か！ 昨夜にパピュラス星人が現れて時空転送の門を置いていったばかりで！ パピュラス星人はどこで遭遇したんだよ？」と聞いた。スティーブンは、「パピュラス星で遭遇した。この時空転送の門からパピュラス星へ行けた。四次元モードに切り換えるスイッチがあるんだ！ 宇宙服を着てないといけないけどね！」と答えた。勇斗は、「そうか！ それは知らなかったよ！」と言った。「過去の日本にきた理由（ わけ ）はなんだ？」と聞いた。スティーブンは、「モンスターを殲滅した忍者たちに会いたくてやってきた！」と答えた。スティーブンは、「身近な人に忍者たちと知り合いは

いない？」と聞いた。勇斗は、「いないね」と答えた。スティーブンは、「それは残念だよ！」と言った。勇斗は、「ここにいつまでいるつもりだ？」と聞いた。スティーブンは、「そうだな！ 忍者たちと会えるまで！」と答えた。沙織はスティーブンに、「私たち明日から与那国島の旅へ向かうの！」と言った。スティーブンは、「そこは日本のどこにある？」と聞いた。沙織は、「日本の最西端で沖縄の離島にある」と答えた。スティーブンは、「俺も行きたい。スキューバダイビングの資格を持ってるから潜りたい」と言った。スティーブンは、「ならば海底遺跡コースがある」と言った。スティーブンは、「おもしろそうなポイントだ！」と言った。勇斗は、「そうだろう」と言った。スティーブンは、「俺はドルを円に為替できる銀行に行ってくる。それで適当にホテルを探すよ！」と言った。勇斗は、「わかった！ じゃあまた８時半にここで会おうぜ！」と言った。スティーブンは、「了解だ！ よろしくじゃあ！」と言って難波の街へ向かっていった。朝起きた勇斗は沙織に起こされて旅の準備をして、マンションの屋上に上がった。スティーブンは勇斗に、「おはよう！ 俺もスーツケースといっぱい着替え買っちゃった！」と勇斗と沙織に出迎えた。関西空港に着いた勇斗と沙織とスティーブンは、飛行機で石垣空港へ向かっていった。石垣空港に着いた勇斗と沙織とスティーブンは、乗り継ぎの小型機に乗って与那国島へ向かっていった。与那国島にたどり着いた勇斗と沙織とスティーブンは、３日後の便まで自由行動になった。勇斗と沙織はアイランドホテル与那国へ向かった。スティーブンはスキューバダイビングのあるホテル入船へ向かった。スティーブンは勇斗に、「俺は宇宙飛行士だから浮遊してるし無重力だし深海にはまだ見たことのもない珍しい生物がいるし未知なる世界がある」と言った。勇斗は、「そうだな！ 海は生物の源（ みなもと ）だからね！」と言った。沙織はスティーブンに、「宇宙飛行士をしてるんですか！ すごいね！」と言った。スティーブンは、「火星探査機の異常で火星に行ったときに、パピュラス星人が火星スペースコロニーを襲ってきて、火星スペースコロニーを破壊した。そしてパピュラス星人が地球に向けてきて、ＬＡの街を壊滅状態にした。俺たちはジークバスターズという集団と手を組んで、パピュラス星人を殲滅させた」と言った。沙織は、「今から２０年後に火星スペースコロニーが出来てるんですね！」と言った。スティーブンは、「もうすでに火星スペースコロニーは建設中だ！ NASA が隠してるだけだよ！」と言った。勇斗はスティーブンに、「スティーブン！ そういえば日本語がうまいな！ いつから習った？」と聞いた。スティーブンは、「中学生の頃から日本の文化に興味があって日本語を習っていた。いつか日本に来てみたかった！」と答えた。勇斗は、「そうなのか！」と言って、「日本で一番に興味があるものはなんだ？」と聞いた。スティーブンは、「サムライとニンジャ」と答えた。勇斗と沙織とスティーブンと色々と雑談をして互いのホテルへ戻っていった。勇斗と沙織は観光した後でジェットスキーを海上に乗せて３時間の貸切で遊んでいた。スティーブンはスキューバダイビングで海底遺跡を義和とバディを組んで潜っていた。スティーブンと義和は海底遺跡が激しく揺れ始めてメインテラスにしがみ付いたまま段々と海面まで立ち上がってきた。勇斗は沙織を後ろに乗せたジェットスキーで海底遺跡ポイントの近くを走っていたら海底遺跡が水面から６メートル立ち上がった大波が起きて猛スピードでぶっ飛ばしていった。勇斗は大波を振り切って沙織を乗せたジェットスキーを海底遺跡のところまで飛ばしていった。勇斗は海底遺跡のメインテラスにいるスティーブンのところまで来た。勇斗はスティー

ブンに、「この古代遺跡は何？」と聞いた。スティーブンは、「海に沈む古代遺跡が立ち上がったって感じだ！」と答えた。スティーブンは、「ジェットスキーの免許持ってたんだ！」と言った。勇斗は、「そう２日で取れた」と言った。義和はスティーブンに、「船がやってくる！」と言って船のほうへ振り向かした。船は海底遺跡メインテラスにいる勇斗たちのところに来た。森脇船長は義和に、「町田くん！ 港に戻るぞ！」と言った。義和は、「はい分かりました」と言ってスティーブンと一緒に船に乗ろうとしたときに海底遺跡の拝所のほうで大きな音がした。スティーブンと義和はダイビング機材などを船上に置いた。水中考古学者でもある森脇船長は、ミステリアスな海底遺跡が気になって探検することにした。森脇博士は船の錨（ いかり ）を海に投げて海底に沈めて固定して義和に船と繋がったロープを投げてループ道路を通して二枚岩にもやい結びさせて勇斗に船と繋がったロープ投げてジェットスキーにもやい結びさせた。勇斗たちは巨人の階段を上がって拝所のほうへ行った。拝所に着いた勇斗たちは柱穴から建ち上がった寺院を見た。森脇博士は考えながらカメのモニュメントの頭の象形文字の一種を見てカメのモニュメントの頭に乗った。カメのモニュメントの頭が下がっていって、ボタンのようにスイッチオンして海底遺跡に変化が起きた。森脇博士は、「海底遺跡下に海底都市があるはずだ！」と言ってカメのモニュメントを探ってみた。森脇博士は全員に、「カメの崇拝者の神を祀られた。みんな！ カメのモニュメントに乗ってみてくれ！」と言って勇たちはカメのモニュメントに乗った。カメのモニュメントの胴体が下がり始めて下がり終わると、勇斗たちの足元が揺らぎ始めて、カメのモニュメントの胴体から離れた。カメのモニュメントの胴体は崩れ落ちていって、空洞の中を見渡すと、中心軸の広い螺旋階段があった。勇斗たちは螺旋階段を下りていって、洞窟を歩いていくと、洞窟を出て海底都市の光景を見た。森脇博士は、「これが日本のアトランティスだ！」と言った。勇斗たちは魚が泳いでる海底なのに息できてる理由として海底都市だけ囲むようにバリケードを張って海水の侵入を防いでいて、石板で出来た建物が広い範囲で並ぶ道をまっすぐ歩いていくと、高さが１３２メートルの階段のある四角い石が積み重なったピラミッドが見えた。ピラミッドまで来た勇斗たちはピラミッドの上っていった途中で、海砂から剣を持ったミイラ兵たちが現れた。勇斗は黒頭巾に黒装束の忍者となってピラミッドの階段を飛び降りて海砂にいるミイラ兵たちのところへ向かっていった。スティーブンは勇斗に、「やっぱ忍者だったのか！ 俺もいくぜ！」と言ってピラミッドの階段を飛び降りて海砂にいるミイラ兵のところへ向かっていった。勇斗は空港の検査場で金属類の通らない斬妖刀を持ってこれなかったから忍術と素手で戦うことにした。勇斗は海水の入らない霧の吹いた海底で火炎火遁の術を使えずにミイラ兵たちの剣を奪って、斬り裂いて蹴り飛ばしてバラバラに砕いていった。スティーブンも同じくミイラ兵たちが剣を振るうのを避けてマーシャルアーツでパンチとキックをしてバラバラに砕いていった。ピラミッドの中へ入っていった勇斗たちは誰が点火したか知らないかがり火と壁に刻まれたカイダ文字のある通路を進んでいったところが行き止まりだった。そこに猟銃を持った男たちが現れた。リーダーの男は勇斗たちに、「ご苦労さま！ 私は秘宝ハンターのモービン・モリスだ！」と言ってマービンと３人の男は森脇博士と義和と沙織とスティーブンに銃を向けた。マービンは勇斗に、「忍者くん！ 君の仲間たちが殺されたくなければこの壁を破壊しろ！」と言った。勇斗は、「こんな厚い壁じゃ忍術を使っても破壊できな

い」と言った。森脇博士は勇斗に、「相生くん！ 私は水中考古学者だ！ カイダ文字を解読していくから壁の仕掛けをパズルのように解いてい！ いいかね！」と言った。勇斗は、「どうすればいいんですか？」と聞いた。森脇博士は、「手順を教えるから、そのとおりにやってくれ！」と言って勇斗は仕掛け区間を通過していった。マービンたちは人質を連れて通路を渡ってきて、勇斗が石室に入って大量の銅鏡に囲まれた棺を見た。マービンたちは人質を解放して棺を開いて見ることにした。棺を開くマービンたちは、どこかの女王と思われる状の生々しいミイラを見たら、ミイラの周りに装飾品と武器と金印が備え付けてあるのを見た。金印を持ってみた森脇博士はマービンに、「これは邪馬台国（ ヤマタイコク ）の倭の女王の卑弥呼のミイラだ！ 卑弥呼の遺体は邪馬台国があった熊本から消えていた」と言った。マービンは、「その金印をよこせ！ あと装飾品も武器も私がいただいていく」と言って森脇博士に猟銃を向けた。３人の男も勇斗たちに猟銃を向けた。勇斗はマービンに、「どういうつもりだ！」と聞いた。猟銃を構えたマービンは、「秘宝は手に入ったからおまえたちにはもう用はない！ ここで死んでもらおう」と答えた。森脇博士は、「売れば高額になるだろうが金印などいらない」と言ってマービンに投げて手渡した。マービンが金印をズボンのポケットに入れた途端に大量の銅鏡が浮かび上がってピラミッドの天辺へ石室の天井の四角い穴を通っていって、いくつか外に出て、光の宮殿に集まった光を銅鏡に照らして、天辺の四角い穴から一つずつ並ぶ銅鏡に反射させて長い空洞を伝って並ぶ銅鏡に反射させていくつか石室に残った銅鏡に反射させると、卑弥呼の身体に照らした。ミイラから蘇った卑弥呼が目を開いて体を起こして始めると、天井に浮かび上がって、浮かんでいる大量の銅鏡を下して元に戻していった。卑弥呼はマービンに金印を戻せと言う顔で向かっていった。マービンは卑弥呼に猟銃を向けて撃とうとしたが、ズボンのポケットの中の金印が燃え始めてズボンのポケットから金印を取り出した。マービンは金印を持っているには熱くて持っていられなくなって金印を持っている手から手放そうとしても離れずに腕が燃え始めて両腕が燃えて体から両足が燃えて顔が燃えて倒れた。３人の男は卑弥呼に猟銃を向けて猟銃を捨て、石室から外へ逃げていった。卑弥呼はマービンの手から離れた金印を手に吸い取って天井の四角い穴から長い空洞を通っていって、四角い穴から出てピラミッドの天辺に現れた。勇斗たちはピラミッドの中から出ようと出口へ向かっていった途中で、仕掛け槍に刺さった３人の男どものお陰で出口までたどり着いてピラミッドの外に出れた。勇斗は、「卑弥呼はアマテラスだったのかな！」と言った。突然と半魚人が海のバリケードを突き破って、ピラミッドの天辺にいるアマテラスのところに降り立った。古代魚のような半魚人はアマテラスの金印を奪おうとした。アマテラスは半魚人を吹き飛ばしていって、金印に祈り、黄色い獅子を呼び寄せた。半魚人は着た衣服から取り出した銀印に祈り、白虎を呼び寄せた。黄色い獅子と白虎は牙を剥き出して咬みつきあって爪で攻撃していった。半魚人は呪文を唱えて、ピラニアのような肉食魚の群れを呼び寄せて海のバリケードを突き破ってアマテラスに襲いかかっていった。アマテラスは肉食魚を手のひら放った炎で焼き払っていった。勇斗は沙織を置いてミイラ兵と戦ったときに使った剣を拾って半魚人のところに行って立ち向かった。半魚人は剣を取り出して勇斗と剣の斬り合いとなった。勇斗は鱗の体である半魚人を斬り裂けなくて打ち止めれなかったときにアマテラスが投げ落とした火焔の勾玉を拾いとった。アマテラスは勇斗に、「その火焔勾玉

を持ち闘志を燃やせば炎の威力が出て炎の剣になる」と言った。勇斗は闘志を燃やして剣を構えると、炎の剣となって炎の剣を半魚人に振り回して蹴って炎の剣で斬り裂いてジャンプして避けて、背後ろから斬り裂いて半魚人を倒した。白虎を倒した黄色い獅子は、どこかへ消えていった。アマテラスは眠る半魚人の近くに落ちてあった銀印を手に吸い取っていった。アマテラスはピラミッドの天辺で右手に金印と左手に銀印を持って天に向けて合した。するとアマテラスの持った金印と銀印が太陽の光を放って海底都市に向けて倭人の民衆たちを蘇らした。海底都市の民衆たちが戯れているとき、日食が起きて光の宮殿に集まった光が閉ざされていった。アマテラスに異変が起きて民衆たちも異変が起きた。森脇博士は、「恐らく天然痘という危険なウィルスの疫病だな！ 昔にアマテラスと倭人たちは疫病で滅んだ！」と言った。アマテラスはピラミッドの天辺の四角い穴から長い空洞を下りていって、四角い穴を出て石室の棺で元の状態に戻った。アマテラスは閉じた棺で乾燥したミイラとなった。民衆たちは倒れ込みミイラとなって砂に戻った。勇斗たちは地震のような揺れを感じ始めてカメのモニュメントの螺旋階段を目掛けて走っていって、カメのモニュメントの螺旋階段を上り終えて外に出た。スティーブンと義和と森脇博士は船のところまで行って、乗り込んで錨を上げて二枚岩に繋いだロープを解いた。勇斗と沙織はジェットスキーに乗り込んで船に繋いだロープを解いた。森脇博士は急いで船を動かしていった。勇斗は沙織を後ろに乗せてジェットスキーを飛ばしていった。カメとモニュメントは元の状態へ戻っていって、ブロックされた。それから海底遺跡は二枚岩にロープを結んだまま段々と海に沈んでいった。北側のナンタ浜に着いた森脇博士は船の錨を下ろして義和とスティーブンと一緒に船から降りた。ナンタ浜に着いた勇斗は、沙織と一緒にジェットスキーを降りた。浜で勇斗は森脇博士に、「マービンはアマテラスの金印が目当てだったか？」と聞いた。森脇博士は、「いや違うな！ 本当は三種の神器が目当てだっただろう」と答えた。森脇博士は波が静まってきたところで船の錨を上げて義和とスティーブンを乗せて南側の港へ向かっていった。勇斗は沙織をジェットスキーに乗せてナーマ浜へ向かっていった。港に着いた森脇博士と義和とスティーブンは送迎車でホテル入船へ戻っていった。ナーマ浜に着いた勇斗と沙織はジェットスキーを返却してバスに乗ってアイランドホテル与那国へ戻っていった。朝起きた勇斗と沙織は支度をしてから朝食を済ませて与那国を出た。スティーブンは支度の準備ができて朝食を摂ってホテル入船を出た。勇斗と沙織とスティーブンは与那国空港で合流して、関西空港まで乗り継ぎの石垣空港まで小型機に乗ってフライトした。機内でスティーブンは勇斗に、「半魚人はなんで金印を奪おうとした？」と聞いた。勇斗は、「古（ いにしえ ）に半魚人はアマテラスの銀印を奪えても金印を奪えなかった半魚人族が海底都市を乗っ取れずにいたんだよ」と答えた。森脇博士と義和はファンダイブのために、船で宮古島へ向かった途中で南側の海底遺跡があるところから赤紫色の煙が空高く流れていっているのを見ると、勇斗たちを乗せた小型機は赤紫色の煙に巻かれていって、不思議に小型機の機体が消えた。森脇博士は気のせいだと思って船を動かした。小型機を乗せた勇斗たちは、ワープして戦国時代にたどり着いた。パイロットとＣＡと乗客と勇斗と沙織は、戦国武将の織田信長に囚われ身となっていたが、何日かで本能寺の変で信長を下した明智軍が安土城を攻めてきたときに解放された。勇斗とスティーブンは兵に無理を言って、天守閣にいる明智光秀と話をして豊臣秀吉が軍隊を率いてやって

くることを伝えた。パイロットとＣＡ二人と乗客１６人は、小型機に向かった途中で和尚に一膳ご馳走すると、騙されて山に見える寺に連れていかれていた。勇斗とスティーブンは小型機の近くまで来たが、パイロットたちはいなかった。勇斗とスティーブンは山に見える怪しい寺が気になって向かっていった。寺に着いた勇斗とスティーブンは玄関に盲目の和尚が現れてパイロットたちのことを尋ねたが、嘘をついたことで格闘をした。鬼に喰わそうとした和尚は、勇斗とスティーブンに打ち止めされて、酒呑童子の鬼頭が現れた。和尚はパイロットたちが食べたものに入れた眠り薬が効いて眠っていたが、勇斗とスティーブンだけ眠ってなかったことで酒呑童子に首を片手持ち上げられて外へ投げ込んで崖の下へ落ちていって、烏たちの餌食となった。勇斗とスティーブンは酒呑童子と戦って絶対絶命のピンチのときに物の怪ハンターの忍者が現れた。鼠色に装った忍者は勇斗とスティーブンと一緒に金棒を振り回した酒呑童子に攻撃していって、忍者が斬妖刀で酒呑童子の背中を斬り裂いて倒した。勇斗は忍者に、「あのっ！ 伊賀の里の忍者の相生悟（ そうじょうさとる ）ですか？」と聞いた。忍者は、「そうだ」と言って、「おぬしは名をどうして知った？」と聞いた。勇斗は、「未来からやってきた相生家の末裔で相生勇斗（ そうじょういさむ ）と申す！ 訳あって乱世の時代に送り込まれた」と答えた。勇斗は、「未来では斬妖刀を持たされて物の怪退治した」と言った。鼠色の頭巾をはずした悟は、「そんなことが起きるのか！ 徳川家の悪霊祓いの斬妖刀を持たされたときから妖（ あやかし ）を斬ることを宿命とした」と言った。勇斗は悟のお陰で突然と現る妖を退治することができて無事に小型機へ向かっていった。勇斗たちは小型機に乗り込んで悟に見送られながら小型機が飛び立った。小型機は与那国島へ向かっていくなかで、ダイバーたちが与那国島の海底遺跡に潜って二枚岩に結んでるロープを解いて寺院のアマテラスと民衆たちを供養した。ミイラ化したアマテラスは火の鳥となって、ピラミッドの天辺から出ていくと、海のバリケードを突き破っていった。海のバリケードは崩壊して海水が入っていくと、海底都市が海に飲みこまれていった。森脇博士はアマテラスに、「これでアマテラスの呪いの層は解けたでしょう！」と呟いた。与那国島の空高く舞い上った赤紫色の煙は徐々に消えていった。小型機は与那国島に近づいて乗客が空を飛んでる火の鳥を見て驚き着陸態勢に入った。スティーブン勇斗に、「悟がいっていたけど、勇斗のことをひょっとこと呼んでいたぞ！」と言った。勇斗は、「なんでお面のひょっとこか？」と聞いた。スティーブンは、「ひょっとこって火の男のことだそうだ」と答えた。勇斗は、「そうか！」と言った。スティーブンは、「時空転送の門を使わず戦国時代にこれた。それに家康と秀吉に会えなかったけど信長と光秀に会えた」と言った。勇斗は、「戦国時代まで時空転送の門からでも行けたのかな！」と言った。乗客の男子は母に、「あっ滑走路だ！」と叫んだ。パイロットは、「滑走路が見えたぞ！」と思って与那国島に着陸していった。姿を消してた小型機は戦国から軌跡の生還を遂げた。パイロットとＣＡ二人と乗客１６人と勇斗と沙織とスティーブンは与那国空港に降り立った。勇斗はいつの間にか私服に着替えていた。スティーブンは勇斗に、「もう戻ってこれないかと思った！ 飛んだ危ない目にあったよ！」と言った。勇斗は、「食わせ者に食わされるところだったな！」と言った。勇斗たちはもすぐに小型機に乗り込んで石垣空港へ飛び立っていくと、石垣空港に着いて関空へ向かっていって、関空にたどり着いた。乗客１６人と勇斗と沙織とスティーブンはパイロットとＣＡ二人に挨拶をしてからそれぞれの

別れて家へ戻っていった。このことは戦国にタイムワープした小型機として、ニュースの話題に取り上げられた。自宅マンションに着いた勇斗と沙織とスティーブンは、ゆっくりと寛いで眠っていた。翌朝に起きた勇斗と沙織は、支度を済ましたスティーブンが２０３５年４月４日１２時３０分（米）と設定して、お昼のうちに屋上にある時空転送の門をくぐろうとした。勇斗はスティーブンに、「これをやるよ！」と竹筒に入った撒菱（まきびし）を手渡した。スティーブンは、「サンキュ！ 今頃アメリカのカリフォルニア州でゾンビみたいなヒューマンレッドアイズ（HRE) が街を襲い始めようとしてる。いつの日か力を貸してほしい！」と言った。勇斗は、「わかった！ 考えとく！」と言った。スティーブンは、「じゃあ！ グッドラック！」と言ってスティーブンは勇斗と沙織に見送られて時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは撒菱を持ったままいつの間にか部屋のベッドで横になって眠っていた。翌日に朝起きたスティーブンは、顔を洗って朝食を済ましてテレビを付けて、ソファに座り転けた。リチャードはソファに座っているスティーブンの向かい側のソファに座った。リチャードはスティーブンに、「太陽系外の惑星に行けて良かったな！」と言った。スティーブンは、「そうだな！ 俺のお陰でスリランカのソロモン島にあるスペースステーションゲートに行けば誰でも行けるようになった！ パピュラス星限定だけどな！」と言った。スティーブンは、「実はその後で時空転送の門をくぐって、忍者が活躍した世紀末の日本にいったんだ！ そのとき勇斗という忍に出会って、一緒に不思議な旅した」と言った。リチャードは、「本当か！ あの頃の日本でモンスターどもを抑えた忍者たちの一人に会ったというのか！」と言った。スティーブンは、「そうだ！ 海底遺跡をダイブしていたら奇怪なことが起きて戦国時代にワープして侍と戦国武将まで会えた」と言った。リチャードは、「それすごい！」と言った。スティーブンは、「だけど父さんの親友だったマテオ刑事に濡れ衣を着せられて大変な目にあうとこだったよ！」と言った。リチャードは、「あいつはわしを裏切ったからな！」と言った。FedEx の配達員がインターフォンを鳴らして箱に入った配送物を届けにきた。ルノー家のドアを開けたリチャードは配達員に、「ドナルドじゃないか！ なんでロスにいるんだ！」と聞いた。ドナルドは、「自分に SWAT は向いてなかったんで配属されてから３年後に辞めて実家のサンフランシスコに戻って今の仕事に就いた」と答えた。リチャードは、「そうだったのか！」と言った。スティーブンはドナルドに、「ドナルド！ いやっ間違った！ ドナルドおじさん配送ありがとう」と言った。ドナルドは、「どういたしましてどこかで見たような顔だね！」と言ってトラックに乗ってどこかへいった。リチャードはスティーブンに、「知り合いか！」と聞いた。スティーブンは、「SWAT 訓練生のときのパートナーだった！」と答えた。リチャードは、「そうなのか！ わしは臆病でおっちょこちょいなドナルドの代わりに現場へ向かった！」と言った。配送物を開けてサイバーショットを取り出したリチャードは、「この装具はパピュラス星人がジーク退治に開発した NASA からの贈り物だ！ これをレーザーガンにはめて撃てば一度に５人撃てる」と言った。スティーブンは、「そういつは驚きだ！ パピュラス星人が持ってたのか！」と言った。勇斗は泰三と愛とろくろ首の初音を連れて、阿修羅島にあると勘づいた時空転送の門をくぐって、エコーパークの湖畔（こはん）にたどり着いた。博物館のような屋敷に佇むスティーブ・ジョブズは、クローン人間として頭に埋め込んでいたマイクロチップを再起用でレプリカントされた。スティーブはこの世を去るまで技術

士のジョセフ・ターナーにいつの日か人生を終えたときに頭のマイクロチップをクローン人間で蘇らしてほしいと頼んでいた。ジョセフはホール会場でサイコテクノロジーについてスピーチした。ジョセフはAI（ 人工知能 ）を使ってロボット忍者１０機を造り出した。ジョセフは研究所でＨＲＥウィルスワクチンの開発をしていたが、ブラックライダーにＨＲＥウィルスを奪われて研究所を爆破された。ブラックライダーは病院内に忍び込んで患者５人に注入していった。ブラックライダーは病院から外へ出ていって、バイクを飛ばしていったが、パトカーに追われて警官にバイクのタイヤを撃たれて転倒した。ブラックライダーは軽傷で警官二人に取り押さえられた。病院で体の弱っていた患者５人はＨＲＥウィルスに感染して体が変化してくると、筋肉増強していって、赤い目の怪物となった。赤目の怪物は病棟の患者と看護婦と医師たちに襲いかかって、噛みついたり爪で引っ掻いたりして感染させていった。感染した患者と看護婦と医師たちは、病院から外に出ていくと、繁華街で人々に襲いかかって、噛みついたりして感染させていった。赤目の怪物５体は患者がＨＲＥウィルスと病原体で異変を起こして狂ったバルゲオとなった。右腕の異常に太いバルゲオは繁華街の建造物を破壊して人々を襲いかかった。繁華街を歩く勇たちは、漠然と街の異変に気づいて騒動へ向かった。その場所に居合わせた人々に襲いかかる頭のいかれた気狂いのＨＲＥ感染者たちと立ち向かっていった。勇斗は黒装束を装って斬妖刀で斬り裂いていった。泰三は黒装束を装って薙刀で斬り裂いていった。愛は赤い仮面で赤装束を装って卍（ まんじ ）剣で斬り裂いていった。初音は着物姿を装って脇差で斬り裂いていった。勇斗はＨＲＥの大群が押しよせて火災旋風の術でものすごい勢いで炎の竜巻を起こして、ＨＲＥの大群を飲み込んでいった。勇斗は火焔の勾玉に念じて闘志を燃やして斬妖刀を構えると、斬妖刀になった。勇はバルゲオ１の首を掴まれたバルゲオ１の太い右腕を解き払って炎の斬妖刀で袈裟斬りで斬り横斬り横腹を斬り裂いて倒した。スティーブンはルノー家でニュースを見て、ＨＲＥ感染者たちがダウンタウンＬＡを襲い始めて謎の３人の忍者のうち一人を勇斗である認識して、カワサキニンジャ２５０ｃｃのバイクに乗って、ロス郊外からダウンタウンＬＡへ向かった。ダウンタウンＬＡに着いたスティーブンは、繁華街で怪しい感じた破壊された建物の１階に入っていって、左手にチェーンソーを持ったバルゲオ２に出くわした。スティーブンはレーザーガンでバルゲオ２を撃っていったが、びくとせずにバルゲオ２に右手で首を掴まれた。スティーブンは絶体絶命のときに勇斗が現れてバルゲオ２を妖銃で撃って倒した。スティーブンは勇斗に、「また彼女と来たのか？」と聞いた。勇斗は、「訳あってもう会うことができなくなった！ あのときの彼女じゃない！ 今の彼女と家族を連れてる」と答えた。勇斗はスティーブンに彼女の初音と父の泰三と妹の愛を紹介した。スティーブンと離れた勇斗たちはホテルで身体を休めて眠りに就いた。翌日の夜に勇斗たちはロス郊外に佇むスティーブンを気にしてロス郊外へ向かった途中で左手にデカい処刑剣を持ったバルゲオ３に出くわした。バルゲオ３は振り回している処刑剣を避けていって、泰三と愛の協力でバルゲオ３の攻撃を抑えて勇斗がバルゲオ３を斬妖刀で斬り裂いて倒した。リチャードはガトリング銃を持って、スティーブンはサイバーショットレーザーガンを持った。スティーブンとリチャードはユニバーシティパークにあるルノー家辺りにＨＲＥの気配を感じてルーシーと人間らしい肌になったキャメロンを地下倉庫に避難させた。スティーブンとリチャードは床に伏せたときにマシンガ

ンを持ったバルゲオ４がルノー家にマシンガンをぶっ放して家にある物を破壊していった。スティーブンはリチャードから手にしたサイバーショットレーザーガンで家の扉を破壊して入ってきたバルゲオ４をロックして撃った。リチャードはガトリング銃でバルゲオ４の脳天にぶっ放して、バルゲオ４を倒した。ユニバーシティパークに駆け付けたジークバスターズは火炎放射器を使ってＨＲＥ団を火あぶりにしていった。ユニバーシティパークにやってきた勇斗たちはＨＲＥ団を倒していって、スティーブンの家だと気になった破壊された扉の中を覗いて見ると、後ろ姿のスティーブンが後片付けしていた。勇斗はスティーブンに、「おいっスティーブン！ お邪魔します！」と言って家に入っていった。スティーブンは、「勇斗か！ バルゲオ４に扉と家にある物を破壊されたよ」と言った。勇斗は、「お気の毒に！ バルゲオ４はよくやっつけたな！」と言った。スティーブンは、「サイバーショットレーザーガンのお陰でね！」と言った。勇斗は、「そいつはすごいのか？」と聞いた。スティーブンは、「あぁ！ 普通のレーザーガンの３倍の威力はある」と答えた。リチャードは安全を知らせて地下倉庫から出したルーシーとキャメロンを連れてスティーブンのとこにやってきた。スティーブンは勇斗に家族を紹介してきたので勇斗も外で待っている家族と彼女を紹介した。お互いの言葉が通じなく軽い挨拶で終わった。泰三と勇斗とリチャードとスティーブンはバルゲオ４を担いで家の外へ放り投げて破壊された扉を補修した。愛と初音とルーシーとキャメロンは家に散らばっている破壊された生活品を片付けた。勇斗はスティーブンに、「ＨＲＥはまだどこかにいる。次が大攻めだ！」と言った。スティーブンは、「そうだな！ 黒幕を探そう！」と言った。勇斗たちは一旦ダウンタウンＬＡのホテルに戻っていった。目覚めた勇斗たちはニュースでＨＲＥ軍団がビバリーヒルズへ向かっていったのではないかとの情報を聞いて、日中で潜んでいるＨＲＥ軍団を探しに向かうことにしてホテルから出てビバリーヒルズへ向かっていった。ビバリーヒルズにたどり着いた勇斗たちはできるだけビバリーヒルズ通りの大きな広い建物内を探索し始めた。勇斗はここのデパートが何か怪しいと思って日系のデパートの店員に問いかけた。勇斗はデパート店員に、「今は準備中ですか？」と聞いた。デパート店員は、「そうです！ 昨日の夜にＨＲＥ軍団がデパートの店員とお客に襲いかかってきて、お店をめちゃめちゃにされておりました」と答えた。勇斗は、「ここに物置倉庫ないですか？」と聞いた。デパート店員は、「３階奥に広いマネキン倉庫があります！」と答えた。勇斗たちは初音が首を伸ばして店員が失神したら３階へ上っていった。勇斗たちはマネキン倉庫のドアの前で暗視形式ゴーグルを掛けて倉庫のドアを開けて侵入した。勇斗たちは視界が緑色だけどＨＲＥ軍団と思える動く物体がはっきりと見えた。勇斗たちはＨＲＥ軍団を残り残さず始末するためにマネキン倉庫のドアを閉めてロックした。愛はマネキン倉庫の壊された照明の電源スィッチを押してみたが、照明が付かずままＨＲＥ軍団に立ち向かっていった。ＨＲＥ軍団は勇斗たちに襲いかかって、ＨＲＥウィルスを移そうとして爪で引っ掻こうとしたが、勇斗たちに抑えられた。惨めで出来損ないの化け物のバルゲオ５が現れた。バルゲオ５は勇斗たちに太い右腕を盾に突進して周りのＨＲＥ軍団を解き払って、体当たりしようとしていった。勇斗たちはバルゲオ５の体当たりを避けていった。バルゲオ５は勇斗たちを太い右掌で払おうとしたが、勇斗たちに避けられてＨＲＥ軍団を払い飛ばしていった。勇斗たちは反対にある壁へ走っていった。バルゲオ５は勇斗たちに右腕を盾に突進して体当たりしようとし

た。勇斗は火炎昇龍波で大きな龍の形をした炎が突進して、バルゲオ５を火達磨にした。勇斗は火達磨状態のバルゲオ５の脇腹を斬妖刀で横切りで斬り裂いた。突進してくるバルゲオ５は、壁に突き当たって壁を破壊して３階から転落していった。勇斗はバルゲオ５が道路脇でうつ伏せ状態になってるのを見て、バルゲオ５を倒したと確認した。勇斗たちはマネキン倉庫のドアを開けて暗視形式ゴーグルをはずしてデパートを出た。勇斗は日が暮れてきたビバリーヒルズの家電販店で舞い降りたＴＶニュースを見た。ジョセフはすべてジョブズの指示によって行った犯行と供述した情報であった。病院でジョセフは５人にＨＲＥウィルスを打って感染を広めていったことについて確かな痕跡はないけど、「化学兵器のテロとバイオテクノロジーの化学実験だ」と言った。ジョブスはハリウッド山の博物館のような屋敷でパソコンに自分のアカウントにパスワードを打って工場から輸送機に乗せたロボット忍者を屋敷へ派遣させた。勇斗たちはビバリーヒルズに夜がやってくると、動き出したＨＲＥ軍団と戦いに挑んだ。ロスを通行止めにしていた警官隊３０人が感染してなったＨＲＥ軍団は人々を襲いかかって爪で引っ掻いたりして感染させようとした。勇斗は警官隊のＨＲＥ軍団を斬妖刀で斬り裂いていったが、拳銃で撃ってきたので瞬間移動の術で他の場所へ移動していって、避けて妖銃で撃っていった。そこにバイクで駆け付けてきたスティーブンが警官隊のＨＲＥ軍団をサイバーショットレーザーガンで撃っていった。勇斗とスティーブンは警官隊のＨＲＥ軍団を全滅させた。警官隊のＨＲＥ軍団を唆（ そそのか ）した傲慢な魔性の女ＨＲＥで四つん這いのゾルネが現れた。勇斗は妖銃でゾルネを撃っていった。ゾルネはトカゲのように出し入れする長い舌をそそって建物の壁を這いずり回っていった。ゾルネはＨＲＥ軍団と戦ってる泰三と愛と初音のところに向かっていった。ゾルネは建物の壁を這いずり回って初音の背後に降り立った。初音はびっくりして長く伸ばした首でゾルネを脅かして失神させようとして威嚇した。ゾルネは初音の長く伸ばした首に長い舌をそそって電気ソックを与えた。初音は長く伸ばした首が元に戻って倒れた。ゾルネは噛みついて感染させようとしたときに、勇斗が妖銃を発泡してきたから乗り移った建物の壁を這いずり回っていった。スティーブンはサイバーショットレーザーガンでロックして撃ってゾルネを建物の壁から撃ち落とした。スティーブンは立ち上がるゾルネの頭にサイバーレーザーガンでロックしてゾルネを撃って倒した。勇斗は腕に初音を起こして肩を揺さぶってみたが、目を開かずいた。勇斗は早くも初音とお別れかと思ってもうこれまでかと嘆いた。抜け殻のようになった勇斗は忍者魂と強者の精神を復活させようとしたときに、火焔の勾玉に念じて闘志を燃やした。勇斗は心の中にアマテラスオオミカミの姿が現れた。アマテラスは勇斗に、「太陽の尽きない力を持つあなたは我が弟のスサノオとカムオオイチヒメの間で産まれた子孫の獅子神ヤシマジヌミノカミである。あなたの願いを一つだけ叶えてあげましょう！」と言った。勇斗は、「愛する初音を生き返らして」と言った。アマテラスは、「その女性の胸に火焔の勾玉を置いて祈れば生き返るはずです！ 火焔の勾玉はタダの勾玉となって、炎の威力を失うでしょう」と言った。アマテラスは心の中から、どこか消えていなくなった。勇斗はアマテラスに言われたとおりに初音を横にして胸の上に置いて生き返ってくれと祈った。軽やかで美しい初音はしばらくして蘇って目を覚ました。初音はしなやかで綺麗な黒髪の人間女性として生まれ変わった。初音は勇斗に、「どうしていたかわからないよ！ 生きてる？」と聞いた。勇斗は、「初音！ 君は人間に生まれ変

わったんだ！」と答えた。初音は、「本当に！ 嘘でしょう！」と言った。勇斗は夜空に輸送機が飛んでいってるのを見上げて、ハリウッドサインのある丘のスティーブの屋敷のほうへ向かったと思ってスティーブの屋敷へ向かっていった。スティーブの屋敷に着いた勇斗はスティーブが何か行おうとする前にスティーブの屋敷に乗り込んだ。スティーブの屋敷はすでに輸送機が降り立ってロボット忍者２０体を設置していた。泰三と愛は建物内にいるＨＲＥ軍団を火炎放射器で放って、火炙りしたジークバスターズと一緒に胃液臭いＨＲＥ軍団を窮地に追いやって消滅した。スティーブンは勇斗の無事を祈ってバイクでスティーブの屋敷へ向かっていった。勇斗は屋敷を進んでいくと、ロボット忍者たちがやってきた。ロボット忍者たちは勇斗に腕から手裏剣発射していったが、斬妖刀で払い飛ばされた。勇斗は仮分身の術で勇斗の分身が５体となってロボット忍者たちに２体３体に分かれて攻撃していった。勇斗の分身の５体は、ロボット忍者たちを斬り裂いて蹴り飛ばして１０体が爆破した。ロボット忍者たちは、勇斗の分身の４体を斬り裂いて倒していった。勇斗はロボット忍者に刃を振るって刃の平らな面を当たって刃こぼれした斬妖刀が折れた。勇斗は取り巻かれたロボット忍者たちに立ち向かおうとしたときに、スティーブンがサイバーショットガンでロボット忍者たちに一括でロックしてロボット忍者の５体を撃って爆破させた。ロボット忍者たちは勇斗とスティーブに腕からミサイルを撃って腕から連続手裏剣していった。勇斗は瞬間移動の術で他の場所へ移動していった。スティーブンは避けていって、部屋に逃げ込んだ。スティーブンはロボット忍者たちが部屋に入ってきて、サイバーショットレーザーガンでロボット忍者たちに一括でロックしてロボット忍者５体を撃って爆破した。スティーブンは倒れたロボット忍者１体に右足を両腕で掴まれてサイバーショットレーザーガンでロボット忍者の頭を撃って倒した。勇斗はスティーブンのいる場所を探しにいった。勇斗は広間でスティーブと出くわした。ジョブスは勇斗に、「しつこいやつらだ！ 私はスティーブじゃない。スティーブによく似たミゲル・ガルシアという者でスティーブのクローンなど存在がない。私はスティーブの頭脳であるマイクロチップを私の頭に埋め込んで偽って生きていたのだ」と言った。不届き者のミゲルは勇斗に、「ロサンゼルス国際空港に新型ジークを鞄に入れた男が２０時３５分の便の旅客機に乗ろうとしてる。旅客機に新型ジークが紛れ込んだら大変なことになるだろう」と言った。勇斗は、「ドーパミンが１５パーセント低下して心をなくした機械できたサイボーグのような鉄クズめ！」と言った。厚かましいミゲルは、「今からでも止めれるものなら止めてみるいい」と言ってペンシングのサーベルを投げて渡した。ミゲルはペンシングのサーベルを構えて勇斗に戦いを挑んだ。それを聞いていたスティーブンは急いで屋敷から出てバイクに乗ってロサンゼルス国際空港へ向かっていった。勇斗はサーベルを構えてミゲルがサーベルを突いてきてはサーベルで突き返していった。ミゲルは勇斗にサーベルで突いていって、勇斗の左肩に突き刺した。左肩を押さえたミゲルに優斗は、サーベルで突いていって、サーベルが誤って、ミゲルの頬を斬り裂いた。ミゲルは頬の切り傷から流れた血を手を拭って勇斗にサーベルで突いていった。勇斗はミゲルにサーベルで突いていって、サーベルがまっすぐミゲルの左足を突き刺した。ミゲルは握ってる左足の切り傷から流血が止まらなくなって床に倒れた。勇斗は左肩から刺し傷から流血して、目が霞んで床に倒れた。ミゲルは駆け付けてきた警官隊に検挙された。ロサンゼルス国際空港に着いたスティーブンは、バイ

クを駐車場に停めてチケット売り場でチケットを購入して検査を通過して２０時３５分の日本行きの便に突っ走った。スティーブンは旅客機に乗り込んで怪しいカバンを持った男がいないか探した。スティーブンはＣＡが離陸のアナウンスをし始めたので通路側の席に着いた。スティーブンの乗った旅客機は滑走路が太平洋の海に面して乱気流もなくシートベルトをはずして落ち着いたときを狙って通路側にカバンを置いてチャックを開けた。後ろ側にいたスティーブンは、真ん中辺りにいる通路側に見えたカバンから新型ジークが現れたのを目撃した。ＣＡは通路側に置いた客にカバンを座席下にお願いしたときに新型ジークを見てから悲鳴を上げた。乗客たちはパニックになって新型ジークがうごめいた。スティーブンは検査に通過できないためにサイバーショットレーザーガンをどこかに置いてきたので新型ジークを仕留める手段がなかった。新型ジークは乗客男性一人の顔に飛びついて口に入っていってから寄生した。乗客男性一人は青ざめた顔で牙を剥き出したＨＲＥと変貌した。ＣＡは乗客たちに、「客席部分の機体の切り離しをおこないます！ 座席に着いてシートベルトを締めてください」と伝えた。スティーブンは乗客たちが座席に着くまでＨＲＥの口を塞いで背後から掴んで抑えた。ＣＡは乗客の全員が座席に着いていることを確認して、スティーブンだけ座席に着いてなかったのを窺った。スティーブンはＣＡに、「俺は抑えてるから君が座席に着いたら客席部分の機体の切り離し合図をくれ！」と言った。ＣＡは、「わかりました」と言って、「みなさん！ 今から１分後に客席部分の機体を切り離します」と伝えた。スティーブンはＨＲＥを通路の向こうに蹴飛ばして座席に着いてシートベルトを締めた。旅客機は飛行中に客席部分の機体を切り離して飛んでいった。客席部分の機体はものすごい風が入り込んで客席部分の機体から外へＨＲＥが吹き飛ばされていった。客席部分の機体は両端にある二つの巨大なパラシュートを開いて、おとなしく海に着水した。ＨＲＥは海底へ沈んでいって、腹を突き破って現れた新型ジークが海面に浮かんできた。スティーブンと乗客たちは無事に救命ボートで救助された。怪しいカバンを持った男は、身柄がバレて検挙された。ミゲルは指揮をとって行われたことに戒めて償いを与えられた。ジョセフは撒き散らしたＨＲＥウィルスで人々を巻き添いにした判決で罰せられた。人々は新型ジーク以外のＨＲＥウィルスワクチン接種した。翌朝に目覚めた勇斗は病院のベッドで横になっていた。泰三と愛と初音は病院で勇斗の無事を祈って見守っていた。垢抜けない愛は勇斗に、「戦いは終わったよ！ 元に戻ろう！」と言った。勇斗は、「そうだな！ スティーブンに会ってからだ！」と言った。勇斗たちは外へ出ていって、ユニバーシティパークのスティーブンの家へ向かっていった。スティーブンの家に着いた勇斗たちは、バイクがあるところスティーブンがいると思って、補修中の扉からスティーブンを訪ねた。スティーブンは勇斗に、「やっと帰ってこれた。ヘタをしたら飛行機が墜落してこっ端みじんになるところだった！ 客席部分の機体が斬り離れて助かった！」と言った。勇斗は、「生き延びれて良かった！ 俺も気がついたら病院にいた」と言った。スティーブンは、「でも助けに来てくれて本当にありがとう！」と言った。勇斗は、「こちらこそありがとう！ あの便が日本にいったら大変なことになるところだった！ いつでもまた会いにこれる！」と言った。スティーブンは、「そうか！ 勇斗のこと一生忘れない」と言った。勇斗は、「グッドラック！」と言った。スティーブンは、「グッドラック！」と言った。勇斗たちはスティーブンと離れてダウンタウンＬＡのホテルへ向かっていった。ス

ティーブンはリチャードに、「あの人たちは日本でモンスターを退治した忍者たちなんだ！」と言った。リチャードは、「そうだったのか知らなかった！」と言った。ホテルに着いた勇斗たちは、和食亭のレストランで食事して男女別で大浴場に浸ってゆっくり休んだ。その夜にキャメロンはルノー家の部屋でゆっくりと雑誌を読んでいた。キャメロンは窓の外からピューナと呼ぶ声が聞こえたので窓を開けてみたらゼジルがキャメロンを呼んでいた。キャメロンは家から出てゼジルのところにいった。ゼジルは、「ピューナ！　さあパピュラス星に帰ろう！」と言った。キャメロンは、「嫌だ！　地球にいたいよ！」と言って本当の実母のゼジルを無視した。ゼジルは、「今ならソロモン島の宇宙エレベーターで宇宙の入り口からパピュラス星に行けるのよ！」と言った。キャメロンは、「クリスタルで地球人と同じ肌になれたのは兄貴のお陰もあってみんな家族と思ってる」と言った。ゼジルは、「私は地球人と偽って職場で仕事してきたけど肌を隠して生きるのは大変だからクリスタルを譲ってくれない？」と聞いた。キャメロンは、「いいよ！　十分に肌が綺麗になったからあげるわ！」と答えた。キャメロンはゼジルにクリスタルを渡した。ゼジルは、「私も地球人らしくなって地球に残る。ピューナのことはどこかで見守って生きてる。また気が向いたら会いに行くからじゃあ！」と言ってどこかへ去っていった。翌朝に目覚めた勇斗たちはモーニングセットを食べてホテルから外に出てエコパークの湖畔へ向かっていった。エコパークの湖畔に着いた勇斗たちは昼頃に時空転送の門と三次元装置に縛った布の紐を解いて布をはぐって三次元装置に１８７０年４月８日１２時３０分（ 和 ）と設定して時空転送の門をくぐっていった。勇斗たちは時空転送の門をくぐって、通過していって、京都にたどり着いた。勇斗は泰三に、「京都にたどり着くとは奇遇だ！」と言った。泰三は、「別の時空に行ってたから場所が移動したんだ」と言った。冴えない顔をした勇斗は、「ニセモノジョブズの屋敷でロボット忍者と戦って斬妖刀が折れたからもう物の怪と戦えない」と言って斬妖刀を赤い鞘から抜いて見せた。泰三は、「この鍛冶屋で新しい刀を作ってもらおう！」と言った。勇斗たちは鍛冶屋へいった。勇斗は刀鍛冶から選んだ玉鋼（ たまはがね ）卸鉄（ おろしがね ）と混ぜ合わして鋼と調合した刀を作ってもらうことにした。刀鍛治は勇斗に、「刀が出来上がるまで１０日ほど」と言った。勇斗たちは鍛冶屋から出て神社で神楽を観て伊賀の里へ戻っていった。勇斗は初音に火焔だった勾玉の首飾りをお守りに首にかけた。未来のアメリカ西海岸で漁師は海に浮かんでＨＲＥの遺体を船に上げて海上に浮かんでいる新型ジークが漁師の顔に飛びついて口に入っていってから寄生して目の赤いＨＲＥとなった。舵を取ってるもう一人の漁師は港に船を着けて船から降りようとしたらＨＲＥの漁師が襲いかかってきて、新型ジークを口から口に移れた。もう一人の漁師も新型ジークが寄生して、目の赤いＨＲＥとなった。ＨＲＥの漁師の二人はトラックに捕れた新鮮な魚を積んでサンペドロの港町にあるフィッシュマーケットへ向かっていった。フィッシュマーケットに着いた漁師の二人は　トラックを降りてフィッシュマーケットに新鮮な魚を運んでいった。漁師の二人は魚市場の店員たちに襲いかかっていって、新型ジークを口から口に移して寄生させて爪で引っ掻いたり牙で噛みついたりしてＨＲＥウィルス感染させていった。スティーブンはルノー家でリモコンでテレビのチャンネルを替えると、カリフォルニア州サンペドロのフィッシュマーケットでＨＲＥウィルス感染者が発生して港町が次々に拡散してる騒動をニュースで見て、「嘘だろう！　ＨＲＥは殲滅してなかっ

たのか！」と言って、リチャードがどこかへお出かけして、この情報を知らせなかったけど、サイバーショットレイザーガンを持ってルノー家から出てバイクに乗ってスペイン人の住むサンペドロへ向かっていった。サンペドロに着いたスティーブンは、バイクから降りて港町にあるフィッシュマーケットへ歩いていった。スティーブンはフィッシュマーケットから外に出て来たＨＲＥたちをサイバーショットレーザーガンで撃っていった。スティーブンはフィッシュマーケット内に入っていって、人々を襲うＨＲＥたちのなかにサイバーショットレーザーガンを向けてＨＲＥウィルス感染者かを判別してＨＲＥ５人にロックされて一括で撃った。スティーブンはサイバーショットレーザーガンでダメージを食らってよろめきながら向かってくる５人のＨＲＥの頭をロックして撃っていった。スティーブンは、「海に沈んだ怪しいカバンを持った男の突き破って腹から現れた新型ジークがＨＲＥたちの誰かに寄生してるはずだ！ 早いところ新型ジークを撃って処理しなければならない」と呟いた。スティーブンは背後からＨＲＥに肩を掴まれてＨＲＥの腕を振り払って後ろを振り向いたら、首を掴まれて新型ジークをスティーブンの口から口へと入れ込もうとしてきて、魚を捌く台所で出刃包丁に手が届いて握った出刃包丁をＨＲＥの前頭部に刺して倒した。倒れたＨＲＥの口から新型ジークが出て来て、辺りをさまよい動いた。スティーブンはサイバーショットレーザーガンで新型ジークに向けて撃っていったが、直売所の鮮魚の台の下に潜り込んで見失った。スティーブンは四方八方からＨＲＥたちが襲いかかってくると、サイバーショットレーザーガンでロックして撃っていった。スティーブンはフィッシュマーケットにいるＨＲＥを片付けたが、新型ジークを探し出すのにフィッシュマーケットの入口の扉を閉めて、新型ジークを逃さないようにした。スティーブンはホースを伸ばして水道の蛇口をひねって、鮮魚の台の下に水を巻いていって、床を水浸しにした。スティーブンは新型ジークが動き出して、壁を這いずり始めて、サイバーショットレーザーガンでロックして撃っていった。新型ジークはレーザー弾が当たって壁に穴が開いたところから外へ逃げていった。スティーブンは、「しくじった！」と言ってフィッシュマーケットから外に出た。スティーブンは左右からＨＲＥたちが押しかけてきて、サイバーショットレーザーガンをＨＲＥたちの頭をロックして撃っていったが、間に合わなくなった。スティーブンはそのとき建物の上から狐のお面の忍者が投げたブーメランが回転しながらＨＲＥたちを斬り裂いていって、ＨＲＥたちの動きをトドめた。スティーブンは危機をまのがれてサイバーショットレーザーガンで残りのＨＲＥたちの頭をロックして撃っていった。お面の忍者は革手袋を被した右手で回転して戻ってきたブーメランをキャッチして煙玉を落として姿を消していった。スティーブンはお面の忍者に勇斗と勘違いして、「おい！ 勇斗か！」と叫んだ。スティーブンはサンペドロのＨＲＥたちを消滅させたのでバイクのあるところまで歩いていって、バイクに乗ってルノー家へ戻っていった。ルノー家に着いたスティーブンはバイクを停めてバイクから降りた。スティーブンはルノー家に帰ってから戻っていたリチャードにサンペドロで起きたＨＲＥたちの騒動について知らせた。スティーブンはリチャードに、「新型ジーク１匹をまだ駆除してないから、そのうちにどこかでＨＲＥたちが現れる」と言った。リチャードは、「それはまずい！ サンペドロのＨＲＥたちを一人で片付けたか？」と聞いた。スティーブンは、「危機の迫ったときにお面の忍者が助けてくれた。もしかしたら勇斗かもしれない」と答えた。リチャードは、「なんで姿を隠し

ていなくなった！ 別人かも知れない！」と言った。スティーブンは、「そうだな！」と言った。３日後、再びマンハッタンビーチでＨＲＥウィルス感染者の騒動が起きた。スティーブンとリチャードはルノー家から外に出て車に乗ってマンハッタンビーチの浜辺へ向かっていった。ＨＲＥの一人は浜辺でビーチバレーを楽しむ若者たちに襲いかかっていった。マンハッタンビーチに着いたスティーブンとリチャードはスティーブンがサイバーショットレーザーガンを持ってリチャードがガトリング銃を持って浜辺へ向かっていった。スティーブンとリチャードはＨＲＥの一人から逃げ惑う若者たちを見てサンペドロで野晒しにしたＨＲＥの生き残りだと思った。スティーブンとリチャードはＨＲＥの一人を追っていった。ＨＲＥの一人は若者男性の一人の背後から飛びついて砂浜に転かして牙で首を噛みついて血を吸い込んだ。ＨＲＥの一人に追いついたスティーブンとリチャードは、ＨＲＥの一人にスティーブンがサイバーショットレーザーガンを向けてリチャードがガトリング銃を向けた。スティーブンはリチャードに、「あのＨＲＥの一人は人間の血を吸ってるぞ！」と言った。リチャードは、「ＨＲＥは人間の血を栄養素していたのか！」と言った。スティーブンは、「いや違うだろ！ あのＨＲＥひとりの腹の中に新型ジークが寄生して宿してる。恐らく１年でＨＲＥの３分１ほど成長した生き残りの新型ジークがいる！ 新型ジークは血を吸い込んで白血球だけ摂取してバクテリアを除外してる。足りなくなったら他の人間の血を求める」と言った。リチャードは、「そうか！」と言った。スティーブンは、「その推測が正しければあのＨＲＥの頭を撃ったとしても新型ジークだけが生き残って体を突き破って現れるだろう」と言った。リチャードは、「もう時期すると新型ジークが巨大化して現れるだろう」と言った。ＨＲＥの一人は血を吸い込まれて抜け殻のようになった若者男性一人が動かなくなった。ＨＲＥの一人は立ち上がって、人間の皮を突き破っていって、巨大な新型ジークとなった。スティーブンはリチャードに、「どうやら最後の新型ジークのようだな！」と言って巨大な新型ジークに向けてサイバーショットレーザーガンで撃っていった。リチャードは、「そのようだな！」と言って、巨大な新型ジークに向けてガトリング銃で撃っていった。スティーブンはすばやい巨大な新型ジークをロックすることができずにサイバーショットガンで撃っても仕留めれなった。リチャードはすばやい巨大な新型ジークをガトリンング銃で撃ちかましていったが、どこにも当たらず仕留めれなった。宇宙蜘蛛型寄生虫の巨大な新型ジークは立ち止まってスティーブンとリチャードに向けて二つの目を赤く光らせてビーム光線を放っていった。スティーブンとリチャードは巨大な新型ジークの攻撃を避けていった。巨大な新型ジークは砂浜に潜り込んで移動していって、スティーブンとリチャードのところに突然と現れた。スティーブンとリチャードは巨大な新型ジークの鋭い脚で胸を刺されそうになったときに、お面の忍者の放ったブーメランが回転しながら鋭い脚２本を斬り裂いて落とした。そのときにスティーブンとリチャードは、巨大な新型ジークの二つの目をスティーブンがサイバーショットレーザーガンで撃っていって、リチャードがガトリング銃で撃っていった。巨大な新型ジークは二つの目を赤く光らせずに攻撃できなくなって倒れた。これでヒューマンレッドアイズはすべての殲滅した。リチャードはスティーブンに、「やったな！」と言った。スティーブンは、「やったぜ！」と言ってブーメランをキャッチしたお面の忍者のところへいった。スティーブンはお面の忍者に、「なんども命を助けてもらってありがとう！ 今日は姿を消さなかったんだな！」

と言った。お面の忍者は、「どういたしまして」と言ってお面をはずした。スティーブンは、「あなたは誰ですか？」と聞いた。お面の忍者は、「俺は勇斗とちょっとした仲間で甲賀盗賊団の新崎渉という！ 勇斗から頼まれて時空転送の門をくぐってきた」と答えた。スティーブンは、「勇斗からどんなことを頼まれた？」と聞いた。渉は、「勇斗は斬妖刀の復活のために岳を登って山にこもった僧侶のいる曹洞宗のお寺に行くと、父上の泰三からタダの刀を斬妖刀にしてもらえると聞いて向かった。その間お宝の引き換え条件で未来のアメリカにいるスティーブンが寄生虫にやられるから助けに行ってくれと頼まれて来た」と答えた。スティーブンは、「そうだったのか！」と言った。渉は、「勇斗はまた気が向いたら未来のアメリカにやってくるといっていた」と言ってどこかへ去っていった。スティーブンとリチャードは車に乗ってルノー家に戻っていった。スティーブンは家族と一晩を過ごして朝起きてから朝食を済ましてリチャードに車で送ってもらったロサンゼルス国際空港からワシントン国際空港まで飛行機に乗っていって、タクシーに乗ってワシントン D.C. にある NASA の宿舎へ戻っていった。渉はエコパークの湖畔にある時空転送の門をくぐっていった。渉は明治３年の京都の清水寺にたどり着いて時空転送の門の電源を切った。はるか時を超えた平成時代で京都タワーの見える綺麗な夜景を一望できる清水寺に置いた時空転送の門は輪くぐりとして祭られた。幕末の頃、勝海舟を協力を得て大洲藩から借り立てた日本初の西洋式帆走船いろは丸は７年間で京都から四国に長崎に鹿児島に宮崎へ航海したいろは丸が紀州藩明光丸と衝突して広島福山に位置した。龍馬は紀州藩士に、「いろは丸に４００丁の銃火器と弾丸を積んじょった。わしらには世界の万国公法がついとる」と言って賠償金を求めた。しかし、海援隊は紀州藩士に銃火器などじゃなくて米と砂糖を積んでいたと説明したために紀州藩士が龍馬に減額した賠償金を支払われるはずだったが、近江屋でししゃも鍋を食べる直前に中岡慎太郎と共に殺害された。勇は渉に、「１９８８年に海底調査したところで４００丁の銃火器と弾丸は見つからなかった。だけど海援隊はいろは丸の沈没寸前に金塊の宝箱だけ持って明光丸に乗り移って金塊の宝箱をどこかに隠した」と言った。渉は、「どこに隠したか知ってるか？」と聞いた。勇は、「それは紀州藩の龍門山にある」と答えた。渉は、「それだけじゃ！ どこに隠してあるかわからない」と言った。勇は、「この地図だ！ 金塊の宝箱のある場所を記してる。龍馬が幕府に狙われちゅうから、『蝦夷国造りのための資金源になるんで金塊の宝箱の在処を記した地図を坂本一族に渡してくれ！』と言って俺に預けた」と言って金塊の宝箱の在処を記した地図を見せた。渉は、「その地図を俺にくれるか？」と言った。勇は、「坂本一族にあったけど、渡さなかった！ それはいろは丸の沈没したときに銃火器と弾丸と金塊など見つからなかったので歴史が変わるからだ！ 譲ってやってもいいけど、未来のアメリカへ向かってスティーブンという宇宙飛行士の危機を少しの間だけ助っ人やってくれないか！ 俺はこの刀を斬妖刀にしてもらいに岳を登って山の曹洞宗のお寺へ向かう」と言って金塊の宝箱の在処を記した地図を手渡した。渉は、「わかった！」と言って金塊の宝箱の在処を記した地図を受け取った。勇は、「未来のアメリカから戻ったら、伊賀の里に放し飼いしてる隼という早馬いるから金塊を運ぶのに馬車にして向かえ！」と言った。渉は、「わかった！」と言った。渉はスティーブンの危機を救った後で、未来のアメリカから戻ってきて、伊賀の里へ向かっていった。伊賀の里に着いた渉は、ロープを投げて捕まえた隼を馬車と繋げた。渉は四人衆を連れて馬車に乗っ

て龍門山へ向かっていった。龍門山に着いた渉は金塊の宝箱の在処を記した地図を見て金塊のある場所に着いた。渉は四人衆と一緒に土を掘って見つけ出した金塊の入った宝箱３箱を馬車に積んで甲賀の里へ戻っていった。時空転送の門は時間的閉曲線の距離間が長いほど戻ってこれるかわからないのでパピュラス星人の技術であっても２００年ぐらい向こうの過去と未来に行けるらしい。

ねこの国のティム

アメリカ航空宇宙局 NASA にて、スティーブン・ルノーは優しくおとなしいマイク・ハワード３１歳と、あっさりした気の強い女性のナンシー・エドワーズ２４歳が宇宙じゃなくて地下空洞を偵察するために参加者から選ばれた。スティーブンたちはドローン技術で出来た飛行探査機に乗り込んで左右の翼にあるプロペラが回り始めて上昇した。飛行探査機は NASA の本局から北極地点までまっすぐに飛んでいった。北極地点にたどり着いた飛行探査機は、地下空洞穴から渦を巻いた海中まで潜水艇になった。飛行探査機は海上に出てプロペラシャフトを停止してエンジンを起動して、海から上昇して反作用で前進していって、赤い地底の太陽が神々の森の仙術師で仙人たちの住む地底世界へいくのに上昇していった。スティーブンは飛行探査機をゆっくり前進させていって、海からはずれた広い大地と山々が見えてきたら、プロペラシャフトを起動させて降下していって、飛行探査機を着陸させた。スティーブンたちはヘルメットをはずした。スティーブンたちは反対側の地底世界だったら月のように無重力で生物など生活できないだろうと思った。スティーブンたちは光と闇が交差する天国と地獄の異次元空間じゃない地下空洞の地底世界にも水があれば生物がいると思って飛行探査機を離陸して泉を探しに森へ向かっていった。森を見つけて飛行探査機を着陸したスティーブンたちは飛行探査機から降りて森の中へ入っていった。スティーブンたちはもしかしたら地底人か巨人がいるかも知れないと思いながら森の奥へ歩いていった。スティーブンは６６０万年前に巨大な隕石が落下して恐竜が絶滅してから生き物と人類が誕生したときに隕石衝突から身を守るために地底世界で生きる道を考えていったかも知れないと思った。スティーブンたちは森の中で走って逃げていく獣を見て驚いていたら木の上に登っている獣と遭遇して、その獣が猫であるとわかった。スティーブンたちは猫ばかり見かけるので猫の森だと判断した。スティーブンたちは森の先へ歩いていくうちに泉を発見した後で、野鳥とウサギとリスなどの小動物と猿たちを見つけた。スティーブンたちは森の中を歩いていって、猫たちの集会広場を見かけた。そこに円となって座ってる猫たちの中心にブラックライオンの王様が黄金の椅子に座っていた。召使いのチンパンジーのデビットはブラックライオンの頭に黄金の王冠を置いてブラックライオンの肩に赤いマントをかけた。ブラックライオンは猫たちに、「人間たちがこの森にやってきた。見つけたらすぐに報告しろ！」と言った。猫たちは、「にゃおー！」と言った。スティーブンたちは危険を感じてすぐさまその場から飛行探査機のあるほうへ走って逃げていった。スティーブンたちの走って逃げたときの突然の騒めきに鳥が羽ばたいていって、集会広場に猫たちが走って散らばっていった。ブラックライオンはスティーブンたちの走っていく足音と匂いを察知して黄金の王冠を落として走って向かっていった。デビットは落とされた黄金の王冠を大

事に拾った。スティーブンたちは必死に逃げていったが、マイクだけがブラックライオンに捕まった。スティーブンとナンシーはレーザーガンを持たずに来たためにマイクを見捨て飛行探査機に向かって走っていった。スティーブンとナンシーは森を抜けていったら、飛行探査機に乗り込んでヘルメットを被って、飛行探査機をプロペラシャフトを起動させて上昇させて北極地点の裏にある渦を巻いた地下空洞穴へ向かっていった。スティーブンは飛行探査機を上昇させて地下空洞穴から渦に巻かれて海に投げ出されて潜水して上昇して海上からNASAへ向かっていった。地底世界に取り残されたマイクはブラックライオンからゴリラたちに引き渡されて宮殿へ連れていかれた。マイクはブラックライオンに牙で咬まれた傷跡もなく無事でいたが、ゴリラたちにブラックライオンの居座る王室に連れてこられた黄金の椅子に座ってるブラックライオンはマイクに、「私の名前はゾーダだ！ ねこの国マァウの国王である。なぜ地上の人間が地下空洞の森にやってきた？」と聞いた。マイクは、「地下空洞の入り口が北極地点にあることを知って地下空洞の中を偵察しにやってきた」と答えた。ゾーダ王は、「我々は地上で暮らす動物だった！ 支配する人間たちによって地底世界に追いやられた！ 人間は互いに争ったり裏切りあったり傷つけあったりする醜い生き物だ！ この地底世界はネコ科動物の支配化において人間だけを追放する。残念だが明日よりおまえは砂地獄の追放だ！」と言った。マイクは、「ちょっと待ってくれ！ 必ず俺の仲間たちが助けに来てくれる」と言った。ゾーダ王は、「問答無用だ！ おまえの仲間たちは置き去りして地上へ戻っていった！」と言った。マイクは護衛のゴリラたちに捕まれて檻に入れられた。地底世界の夜が明けて地底の太陽が現れた。翌朝起きたマイクは檻の中で何も食べさせてもらえぬまま真昼の赤い地底の太陽が昇っている頃にゴリラたちに檻から出されて猫たちが集まった宮殿の外で目隠しされず両腕を後ろに縛られたままラクダに乗って砂漠へ砂地獄の追放をさせられた。ラクダに乗せられたマイクは、長い道を経て進んでいくと、砂漠にたどり着いて、砂地獄に出会った。マイクはラクダと共に雪崩れ落ちていくさま砂地獄の正体が巨大ミミズであることに気づかなかった。マイクは巨大ミミズの口に落ちていく瞬間に何者かが腕を掴んだ。獣のような手で腕を掴んでるのはテナガザルたちだった。テナガザルたちは腕を掴むマイクを引き上げていった。ラクダは砂地獄に引きずり込まれていって、巨大ミミズに呑み込まれていった。マイクはテナガザルに目隠しと縛らられた両腕の縄を解いてもらった。マイクはテナガザルに連れてかれてジャングルにやってきた。マイクのところにオラウータンのデジャブ村長が現れた。デジャブ村長はマイクに、「わしらは手なが族といわれる族だが、おまえさんを助けた理由を教えよう。狩上手なネコ科動物たちのいるマァウに支配されたサル科動物たちを助け出すことだ！ 猿の中で最も進化を遂げた人間の力がいる。それに人間はオラーウータンの親戚の猿が進化した」と言った。マイクは、「どうすればいい？」と聞いた。デジャブ村長は、「人間たちを地底世界まで呼んでマァウを支配すればいい！」と言った。デジャブ村長はマイクに鶏肉と豚肉とりんごとバナナとヤシの実などの食糧を与えて食べさせた。

マイクは、「食糧をありがとう！ でもどうやって地上へ戻るんだ？」と聞いた。デジャブ村長は、「この大きな穴から頭から飛び込んでみるといい」と言った。マイクは、「わかった！ やってみる」と言って大きな穴に飛び込んでいった。マイクは大きな穴の中に吸い込まれていって、長く続く暗い穴の中から一点の光が見えてきて、段々と光に広がって

いくと、地上に投げ出されて３メートルほど高いところから地面に着地した。マイクは降り立った場所がジャングルの中でジャングルから出ようと走っていったときに、枝の上に巻き付いた蛇に出くわして、そっと蛇に近づいていって、素手で蛇の顎を押さえて掴んで投げ捨てた。マイクは息を整えてジャングルをひたすら走っていって、ジャングルから出たところに村が見えてきた。マイクは村の様子を見ていたらベトナム風のすげ笠を被ったベトナム民族衣装のアオザイを着たふたりの女性がベトナム語を話しながら用事してるから、ここがどこであるか分かった。NASA の本局にて、NASA の本局に着いたスティーブンとナンシーは局長室へ出向いて局長にマイクことについて報告した。スティーブンはマイクを地底世界に置き去りにして戻ってきたことに責任を感じて宇宙飛行士を辞任することにした。ナンシーはスティーブンの判断で決めて地底世界を離れたので責任がないとして、そのまま NASA の本局に残ることにした。スティーブンは NASA の宿舎を離れてニューヨーク郊外に引っ越した。スティーブンはレストランの裏の厨房で皿洗いして、家賃と生活費を稼いで暮らした。スティーブンはニューヨーク市の生活支援で家賃の安いところに住んでいた。スティーブンは夢と希望を見失って絶望的になったときに野良猫が部屋の少し開いた扉の隙間から、「にゃー！」と言って入ってきた。スティーブンは黄色の瞳で黒い毛並みの猫に興味を持って猫の頭を撫でてかわいがった。スティーブンは野良猫を幸運の猫だからティムと名づけて大家に黙って部屋で放し飼いにして飼うことにした。スティーブンは近くのスーパーでキャットフードと猫砂を買ってティムのいる部屋に戻った。スティーブンは孤独を癒す家族ができると、いつも心の支えにして生きれるようになった。スティーブンは短毛種で黒猫のティムに猫じゃらしをして遊んであげてるときに無垢でやんちゃな男の子のティムを見て、もう子猫から成猫になったばかりの１歳ぐらいだろうと思った。ベトナムの村にて、マイクはベトナムに住む祖父がフランス人で滞在した時にベトナム語を学んだことがあった。マイクは用事をしてるときに野菜かごをひっくり返したベトナム女性ひとりに問いかけて野菜を拾ってあげた。マイクはベトナム女性ひとりに、「大丈夫ですか！ この野菜は落としたから、よく洗ったほうがいいですよ！」と言った。ベトナム女性ひとりは、「そうですね！ どうもありがとう」と言った。マイクは、「この辺りに栄えた街はないですか？」と聞いた。ベトナム女性ひとりは、「８０キロ先にベトナムの首都のハノイがあります！ とても歩いてはいけない！」と答えた。マイクは、「そうか！ それは困った！」と言った。ベトナム女性ひとりは、「ハノイの街に買い出しあるから、ついでに私のバイクの後ろに乗せていってあげていいよ！」。マイクは、「よろしくお願いします！」と言った。すげ笠をはずしたベトナム女性ひとりは、「あなた名前は？」と聞いた。マイクは、「マイクだ！」と答えた。ベトナム女性ひとりは、「私はリエンです！ 腹が空いてませんか？」と聞いた。マイクは、「今日は何も食べてなくて！」と答えた。若く細身のリエンは、「それなら米を麺にしたフォーボーを作ってあげましょうか！」と言った。マイクは、「いいですか！」と言った。リエンはマイクを連れて家の中に入って食卓にあるイスに座って、しばらくしてリエンが切った玉ねぎと一緒に煮込んだ牛肉が上に乗ったフォーボーをテーブルに置いた。リエンは、「召し上がれ！」と言った。マイクは、「いただきます！」と言ってフォーボーを頬張った。マイクは、「ごちそうさま！ 美味しかったです」と言った。リエンはお皿と箸とコップを片付けて、「ハノイの街へいきましょう！」と言った。

マイクは、「いきましょう！」と言った。マイクとリエンは家から外に出てヘルメットを被った。マイクはリエンの乗ったバイクの後ろ席に乗ってハノイへ向かっていった。マイクは田園畦道をリエンが走らせるバイクの後ろ席でリエンの腰を持って話しながら優しく接しているリエンに惹かれた。バイクに乗ったマイクとリエンは２時間ぐらいかけてハノイにたどり着いてヘルメットをはずした。マイクはリエンに、「色々としてくれてありがとう！」と言った。リエンは、「どういたしまして！ ここからどうする？」と聞いた。マイクは、「ハロン湾へ行きたい！」と答えた。リエンは、「ハロン湾のあるバイチャイまで１７０キロもあって４時間かかる」と言った。マイクは、「わかった！ またいつか君の家を訪ねに行くよ！ じゃあ」と言った。リエンは、「いつになるかわからないけど待ってます！ じゃあ」と言って市場へ肉と魚を買い出しにいった。マイクはリエンに自分が宇宙飛行士であることやアメリカから地下空洞に行って、たどり着いた地底世界からベトナムにテレポーションスポットでベトナムのジャングルにやってきたことまでを話したが、アメリカへ帰るための旅費がないことまでは迷惑をかけたくなかったから教えなかった。マイクはハノイの街のどこかで住み込みの仕事を探してお金を稼いでハロン湾に行って、パスポートを持ってないために、ベトナム難民船に乗って帰ろうと考えた。マイクはレストランの厨房で賄い付きの調理補助などをして、安い家賃の部屋に住むことができた。マイクはレストランの厨房で６ヶ月ほど頑張って、契約を終えてアメリカへ帰るための資金も集まったので部屋を出ることにした。服を着替えたマイクは、一度もリエンの家を訪ねずミニバスに乗ってバイチャイへ向かっていった。バイチャイに着いたマイクは、クルーザー乗り場からクルーザーに乗ってハロン湾へ向かった。世界遺産のハロン湾に着いたマイクは、クルーザーから海の桂林と呼ばれたハロン湾のエメラルドグリーンの海水と熱帯雨林と石灰岩からなる島々の美しい風景を眺めた。マイクはかつて龍が降り立つ場所の意味を持つハロン湾に龍の親子が舞い降りて敵に口から放った宝石で敵を倒したときに、海面に突き刺さった沢山の宝石が島々となったと由来するこの地で無事にアメリカへ帰れないか願った。マイクは座席の隣り座っていたベトナム人のおじさんに話しかけた。マイクはおじさんに、「すいません！ この辺りでベトナムを脱国して難民船に乗って日本やアメリカへ不法入国をしようとしてる連中の話を聞いたことないですか？」と聞いた。おじさんは、「サイゴンのほうでそんな生活の貧しい連中の話を聞いたことあったが、今頃は偽造パスポートなどを使って飛行機に乗って不法入国する者が多い時代だからね！ 聞かない」と答えた。マイクは、「そうなんですか！ 自分はパスポートを持ってなくてアメリカへ帰れないで困ってます」と言った。おじさんは、「それならハノイのアメリカ大使館に行って、パスポートを申請したらいい」と言った。マイクは、「あっ！ その手があったか！ おじさんありがとうございました」と言った。クルーザーから降りたマイクは、ミニバスに乗ってハノイへ戻っていった。ハノイに着いたマイクはバイクタクシーでアメリカ大使館へ乗っていった。アメリカ大使館に着いたマイクは、長い順番を待ってパスポート申請の手続きをしてパスポートができるまで１週間を待つことになった。マイクはその間にベトナムの古都など見に行って、小旅行しようと思いついた。マイクは古（ いにしえ ）に中国の明軍から神から授かった剣で黎利（ リーロイ ）が独立を勝ちとって、ハノイの湖上で遊ぶ黎利のところに剣の返却を求めてやってきた亀に剣を投げたら亀が剣を咥えて潜っていったいう還剣湖とその

近くにあるオペラハウスのフランスの植民地時代に建てられた洋風の建物がベトナム戦争などをくぐり抜けてハノイの人々に芸術の場として利用されているところを歩いて見学した。マイクはベトナムの知識を知ってるとしたらベトナム戦争で南ベトナム軍に国連で援軍についていたアメリカ軍がロシア軍が助けた北ベトナム軍に負けて南ベトナムの首都だったサイゴンがホーチミンと改名して北ベトナムのハノイがベトナムの首都になったことやフランス植民地から独立記念で漢字からアルファベット文字に変わったことしか知らなかった。マイクは料理店でベトナム風サンドイッチのバインミーを食べて北部のハノイからベトナム鉄道の列車に乗って中部のホイアンにやってきて、ポルトガル人やオランダ人が訪れることが多かったエキゾチックな中華街と日本の街の建物が並ぶ港町のホイアンの街を歩いてホイアン市場で鶏肉の乗ったフォーガーを食べてフルーツジュースを飲んだ。マイクはトゥボン川の港で小さな船に乗ってホイアンの風景を眺めながらダナンへ向かっていった。ダナンに着いたマイクは、タクシー自転車のシクロに乗ってダナン中心街を見物した後でソンチャ半島へ向かっていった。ソンチャ半島に着いたマイクは広い敷地のあるリンウン寺で巨大な白い観音像を崇めた。マイクはシクロに乗ってソンチャ半島からプルクラリゾートダナンの海岸通りを走って潮風を感じた後でダナン市街地へ戻っていった。ダナン市街地に着いたマイクは、歩いてきた港で小さな船に乗ってホイアンへ向かっていった。ホイアンに着いたマイクは、歩いてきたホテルでチャックインしてホテルの部屋に荷物を置いて部屋を出ると、ホテルから外に出た。マイクはホイアン市場でベトナムグルメを味わった後で、ランタンの火が輝く世界遺産のホイアンの夜の街を歩く。翌日の朝起きたマイクは、チェックアウトしてホテルから外に出てバイクタクシーに乗ってダナンへ向かっていった。マイクは海岸通りを通っていくのに、ホイアンの砂浜にいる牛たちを見たりして海のビーチに綺麗な朝陽の見えるダナンにたどり着いた。マイクはダナン市街地から列車とバスに乗って古都フエへ向かっていった。古都フエに着いたマイクは、フエにある世界遺産のベトナム最後の王朝が住んでいた王宮と都を見学して、宮廷料理を食べた。マイクはダナン市街地に戻ってシクロに乗って、コン市場へ向かった。コン市場に着いたマイクは、コン市場でたまにバイクがやってくる狭い通路を歩いていって、食材と調味料と衣料品などの生活必需品を見て、シャツだけ買ってダナン市街地に戻った。ダナン市街地に着いたマイクは、歩いてきたホテルでホテルチェックインして部屋で休んだ。翌日の朝起きたマイクは部屋を出ると、ホテルから外に出て列車とバスに乗ってミーソン遺跡へ向かっていった。ミーソン遺跡に着いたマイクはかつてのチャンパ王国が栄えたミーソン遺跡とフオン河のある街を見学した。マイクはダナン市街地に戻ってホテルで休んで南部のホーチミンへ行ったら、何をするかプランを立てた。翌日の朝起きたマイクはチェックアウトしてホテルから外に出て列車とバスに乗ってホーチミンへ向かっていった。ホーチミンにたどり着いたマイクは、ホーチミンの街を周った後で赤道が近くて暑いホーチミンでシャワーの水しか出ないホテルが多いのでニャチャンリゾートホテルに移動してチャックインした。マイクはニャチャンビーチで海水浴を満喫した。マイクはニャチャンリゾートホテルに戻ってベッドで休むと、リエンのことを思い出してこんなひと気のないリゾートでリエンと一緒にいれたら最高だろうなと妄想して、アメリカへ戻れなくなるから、そんな妄想するのを止めとこう思った。マイクはそう考えるとベトナム戦争時代にあの村の家か

ら捕虜としてリエンをさらっていく同じ部隊の米軍兵たちが集団レイプ殺人をしてはいけないと思って、自分が軍法違反にしてまでジャングルの向こうへ戦地から助け出している被害妄想をした。マイクはシャワーを浴びた後でマグネシウムが多い水道水よりも腹を壊さないペットボトルのウォーターを飲んでベッドに横になった。翌日の朝起きたマイクはニャチャンリゾートホテルをチェックアウトしてホテルから外に出てカムラン国際空港へ向かっていって、カムラン国際空港で飛行機に乗ってタイ湾にあるカンボジアに近いベトナムのフーコック島へ行くためにフーコック国際空港へ向かっていった。フーコック国際空港にたどり着いたマイクは、リゾートホテルでチェックインして白浜ビーチで泳いで後でフーコック国立公園の野鳥園を歩いた。マイクはリゾートホテルに戻ってゆっくりと体を癒した。翌日の朝起きたマイクは、リゾートホテルをチェックアウトしてホテルから外に出てフーコック国際空港へ向かった。マイクはフーコック国際空港で飛行機に乗って、イノバイ国際空港へ向かっていった。イノバイ国際空港に着いたマイクは、バイクタクシーに乗ってハノイのアメリカ大使館へ向かっていった。アメリカ大使館に着いたマイクは、短い順番を待ってパスポートを作って手にした。アメリカ大使館から外に出たマイクは、ハノイの街の料理店でチャーハンと生春巻きを食べた後で、再びイノバイ国際空港へ向かっていった。イノバイ国際空港に着いたマイクは飛行機に乗って羽田空港とデトロイト・メトロポリタン・ウェイン・カウンティ空港で乗り継ぎをしてワシントン・ダレス国際空港へ向かっていった。マイクは２４時間をかけて長い空路を経てワシントン・ダレス国際空港にたどり着いた。マイクはタクシーに乗って NASA の本局へ向かっていった。NASA の本局に着いたマイクは、入り口でＩＤカードをタッチして、局長室へ向かった。マイクは局長室の扉をノックして中へ入ると、ブラウン局長が驚いた。マイクはブラウン局長に、「ご無沙汰してすいません！」と言った。ブラウン局長はマイクに、「生きていたのか！ 無事で良かった！ どうして飛行探査機がないのに帰ってこれたのか？」と聞いた。マイクは、「ねこの国のある森で王様と思われるブラックライオンに捕らわれて砂地獄の追放されましたが、馬に乗ったまま長い経路をたどって砂漠に着いて馬と一緒に疲れ果て、そのまま砂地獄に巻かれていこうとしたときにテナガザルたちに助けられて、気がついたらジャングルに住むオラウータンのデジャブ村長のところにいた。デジャブ村長は、『この地底世界はハンターのネコ科動物たちによって支配されている。オラウータンの親戚からなったサル科動物の人間たちの勢力を借りてねこの国マァムに支配された猿たちを助け出して猿たちの支配下にしたい』と言って食糧を与えられてテレポーションスポットという大きな穴から地上まで行けるといったので大きな穴へ飛び込んだら吸い込まれていって、地上にたどり着いた」と言った。ブラウン局長は、「テレポーションスポットか！ なんだそれは？」と聞いた。マイクは、「瞬間的に移動できる大きな穴です！ 動物たちはその大きな穴に誤って吸い込まれていって、地底世界で生きていくことになったのだろう」と答えた。ブラウン局長は、「しかし、ここに帰ってくるまでに半年も長い時間がかかったね！」と言った。マイクは、「テレポーションスポットからたどり着いた場所がベトナムだったためにお金もなくさまよってる訳にもいかず半年間ベトナムで仕事をして稼いだお金で帰ってこれた」と言った。ブラウン局長は、「そうだったか！ マイクの生きているか消息不明だったので籍を残しておいたよ」と言った。マイクは、「ありがとうございます！ ねこの国マァム

の支配下を抑えに地底世界まで人間たちを派遣させますか？」と聞いた。ブラウン局長は、「まあ待て！ それは地下の話で地上の話でない。そんなことを人間たちが協力する必要はない。それにどうやって地下へ人間たちを送り込むんだ！」と答えた。マイクは、「あのテレポーションスポットの大きな穴は世界各地にあって、上りと下りがあるそうです！ 下りのある場所を探し出せば大勢の人間たちを送り込めるでしょう！」と言った。ブラウン局長は、「考えておく！ 宇宙科学班にテレポーションスポット調査をさせておく！」と言った。マイクは、「よろしくお願いします！」と言って局長室から外に出た。マイクは残されていた宿舎の部屋に戻ってパソコンでフェイスブックのＳＮＳにベトナム紀行を投稿した。マイクはリエンがパソコンもモバイルフォンも持ってなかったために、ＳＮＳも電話もできず連絡手段ができなかったことを残念で過ぎなかった。ニューヨーク郊外のアパートにて、スティーブンは気まぐれで気高い黒猫のティムに首輪をつけて、部屋から脱走しても飼い猫だとわかるようにした。ハロウィーンにスティーブンは金色の瞳で長い尻尾の黒猫のティムにハロウィンパーティのコスプレさせて写真を撮ってインスタグラムに投稿した。スティーブンは週５日の８時間労働でレストランの厨房で皿洗いをして部屋に戻ってからティムといれる幸せなひと時を癒された。スティーブンはいつもティムの器の水を入れ変えて、皿にドライフードを入れて、トイレ掃除して猫砂をたして、たまにブラッシングしてやったり、ティムにつけたハーネスのリードを持ってセントラルパークを散歩することがある。スティーブンはときどきティムに爪研ぎ置いてないから爪で引っ掻いてきたり甘噛みもされるけど怒ったりしなかった。スティーブンは野生真が発しても、森で生きた動物だから仕方ないことだと理解した。スティーブンはティムと出会ったときにティムを病院へ連れていって、検査する必要があったけど色艶といい綺麗な毛並みでとても感染などしてないだろうと信じてすでに１歳を過ぎているようだから去勢手術をさせなかった。スティーブンはティムの発情のときにメスを求めてうるさい声を出さないかスプレー行為をして部屋に匂いをつけてないか心配したが、ティムと一緒に暮らして半年経つけど、その辺りはおとなしいままであった。スティーブンはいつの日か日の暮れた頃にナンシーが部屋を訪れてきて、マイクが NASA の本局に生きて戻ってきたことを知らせにきた。スティーブンはナンシーを連れて部屋から外に出て、近くにあるノワールというカフェへ向かった。ノワールというカフェに着いたスティーブンとナンシーは、お店の看板であるイラストの黒猫の名前がノワールなのは黒をフランス語でノワールと呼ばれる行きつけのお洒落なカフェで向かい合わせでテーブルのイスに座った。スティーブンはナンシーに、「それでマイクはどうやってあの地底世界から戻ってこれたんだよ？」と聞いた。ナンシーは、「テレポーションスポットという大きな穴から地上へ瞬間移動してベトナムに滞在していたそうよ！」と答えた。スティーブンは、「ベトナムに！」と言った。ナンシーは、「あ！ ベトナムのジャングルに着いて、村で一人のベトナム女性と出会って街までやってきたけど、アメリカに帰る旅費もないから、しばらくは安い部屋を借りて仕事をして稼いで NASA の本局に帰ってきた」と言った。スティーブンは、「そうか！ マイクを地底世界に置き去りにして俺のことを恨んでなかったか？」と聞いた。ナンシーは、「何もいってなかったけど、ブラックライオンに捕らわれてから砂地獄の刑で砂漠へ追いやられて危機を救ってくれたテナガザルたちによって、デジャブ村長に導かれてテレポーションスポットでベトナムに着い

て、ひとりのベトナム女性と巡り会えたついでにベトナムの旅ができて良かったといっていた」と答えた。スティーブンは、「そうかな！ そんな気はしないね！ 俺は先輩を見捨て逃げていったんだ！」と言った。ナンシーは、「今更、そんなことをいっても間に合わない！ あのときに私は飛行探査機に乗ってどこかへ移動して様子を見て、マイクを助けに行こうといったのに！」と言った。スティーブンは、「飛行探査機に燃料がなかったし生物がいないか探索しにきただけで武器を持ってきてなかったから判断したんだ」と言った。ナンシーは、「それよりもマイクはゲジャブ村長との約束で地底世界のネコ科動物たちの支配下からヒト科動物の人間たちを地下へ送り込んで、ねこの国からヒト科動物たちを解放させてネコ科動物からヒト科動物たちの支配下にしようとしてる」と言った。スティーブンは、「本当か！ テレポーションスポットは反対に地下に行けるのか？」と聞いた。ナンシーは、「テレポーションスポットは上り下りがあって宇宙科学班が世界各地を調査してるみたい」と答えた。スティーブンは、「そういえばセントラルパークに大きな穴があるから危険だから立ち入らないでと周辺を柵で囲いをして KEEPOUT の立ち入り禁止テープが貼られていた。まだニュースになってなかったけどね！」と言った。スティーブンはカフェでナンシーと一緒にドーナツを食べてカフェオレを飲んでカフェから外に出た。スティーブンは、「それじゃあバイバイ！」と言った。ナンシーは、「バイ！ 早く NASA の本局に戻ってきて！」と言った。スティーブンは、「わかった！ 早いうちに戻れるなら復帰するよ！」と言った。スティーブンはティムの待っているアパートの部屋へ戻っていった。スティーブンは部屋の扉が少し開いたまま外に出ていたために、もしかしたらティムが脱走してないか頭が真っ白になって不安になり、心配してティムの姿を部屋の中を探し歩いたが、どこにもティムを見つけられなかった。慌てて部屋から外に出たスティーブンは、ニューヨーク郊外をティムを探しに歩き回って夜の摩天楼ニューヨークのマンハッタンに歩いてきて、マンハッタンブリッジの見える川沿いの道を歩いていって、ニューヨーク中央付近のセントラルパークにたどり着いた。スティーブンは猫の聴覚が人間よりも何倍も優れて３００メートル向こうの物音が聞こえることから３００メートル以内いることが多いけど３００メートルを超えていったら迷子になると本に書いていたのを覚えていた。スティーブンはセントラルパークの中に入って、気が動転して目まぐるしい視界をさまよってティムと散歩した道を歩いていった。スティーブンは立ち入り禁止テープの貼られて柵のしてある大きな穴にたどり着いた。スティーブンは立ち入り禁止区域の周辺を見て、ティムの首輪がはずれて落ちていることに気づいた。スティーブンはどうやらティムが柵を乗り越えていって、大きな穴に吸い込まれていったに違いないと思って、柵を乗り越えて近くまでいった大きな穴を覗いてみた。スティーブンは大きな穴に吸い込まれるように落ちていって、大きな穴から地下へ投げ出されて高さ３メートルから地面に着地した。スティーブンは、「地下空洞の入り口はこんなところにもあったのか！」と言って月の光に照らされた海の見える島国にたどり着いた。スティーブンはティムがあそこにある大洪水のときのゾアの箱船に乗って、どこかへ向かっていったのかと思った。スティーブンはゾアの箱船の中へ入っていって、マントヒヒのゲマール船長に訪ねた。スティーブンはゲマール船長に、「ここにティムという黒猫やってこなかったか？」と聞いた。ゲマール船長は、「ねこの大国マァウの王子ゾーイ様なら、今さっき箱船に乗ってマァムへ向かっていったぞ！」と答

えた。スティーブンは、「ティムがゾーイ王子な訳ないだろう！ 良かったらマァムまで乗せていってくれないか？」と聞いた。ゲマール船長は、「申し訳ないが、ゾーダ様に許可された獣だけが乗ることのできる箱船だ！」と答えた。スティーブンは、「俺はゾーイ王子のパパなんだ！」と言った。ゲマール船長は、「嘘をつくな！ ゾーイ様のパパは国王のゾーダ様の子でしかいない！」と言った。スティーブンは、「地上では俺がゾーイ王子のパパだ！ ちゃんとここに証拠がある」と言ってティムと一緒に撮ったときの写真を見せた。ゲマール船長は、「本当だ！ 仕方がない！ ゾーダ様に人間を通すなといわれたが、理解してくださるだろう」と言って舵をとって、船を動かしてマァムへ向かっていった。スティーブンは、「地下にも海があるんですね！」と聞いた。ゲマール船長は、「そうだね！ あの島国は毎年のように津波が起きて海に飲み込まれるのでゾアの箱船が必要なんだ！」と答えた。スティーブンは、「そうなんですか！」と言った。帆を張る棒に掴まったオウムのデットはスティーブンのところに飛んでやってきて、問いかけた。デットはスティーブンに、「君は人間か？」と聞いた。スティーブンは、「そうだ！」と答えた。デットは、「なんでまたここにやってきた？」と聞いた。スティーブンは、「自分の猫を探してる」と答えた。デットは、「そうか！」と言った。スティーブンは、「なんで地下の動物はみんな話せるんだ？」と聞いた。デットは、「それは人間の言葉を覚えて顎と喉と声帯の進化によって話せるようになった！」と答えた。スティーブンは、「そうだったのか！」と言って月の光だけで真っ暗な海を見た。スティーブンは、「今頃ティムも先の箱船でマァウへ向かって航海してる。ここ半年間はいつも部屋でティムが俺の傍にいてくれた」と言ってティムが俺の腕に引っ掻いたときに残した爪痕を見てからあのときの出来事を思い出した。スティーブンは、「俺の猫はねこの王国マァウの王子かも知れないんだ！」と言った。デットは、「え！ あのゾーダ様の後取りなんですか！」と言った。スティーブンは、「でも俺の猫はブラックライオンじゃないから違うだろ！」と言った。デットは、「ゾーダ様はもともと猫だったのです。ブラックライオンなのはハイエナ女王のマジョリーヌに魔法をかけられてあのような猛獣の姿となりました」と言った。テッドは、「犬の祖先のオオカミが率いるイヌとキツネとタヌキのイヌ科動物たちとライオンが率いるトラとヒョウとクロヒョウとジャガーとチーターのネコ科動物たちの戦いで、イヌ科動物よりもネコ科動物のほうが生き延びて種類も豊富にいるネコ科動物たちが勝ち残ってねこの王国が出来た。どちらかといえばネコ科動物のハイエナたちは、マジョリーヌに命令を背いて戦いに参加しなかった。猫のゾーダ様はマジョリーヌに、『力を貸してくれないか！』と言ってハイエナ女王のお城に訪れた。マジョリーヌは、『ハイエナのメスは飾りのチンポをぶら下げていて、オスがいなくてもいざとなればオスとなって、子孫を増やすんだ！ ハイエナ王は姿を消して戻ってこない。どうしようもないよ！ わたしゃあオスになってまで戦いたくないよ！ そんなに力を貸してくれというなら天下無敵の百獣の王にしてやる！』と言ってゾーダ様に魔法をかけてブラックライオンにしてお城からどこかへ姿を消した」と言った。スティーブンは、「そうだったのか！」と言った。デットは、「そうなんだよ！ 地上で５５００万年前にヨーロッパの周辺の森に生息していた猫と犬の祖先であるミアキスという動物が生き残りの争いが繰り広がって、森に猫と草原に犬と海にアシカと住処を移動し始めた。最近になって、地形に突如として現れた自然現象のお陰で出来た大きな穴に落ちて地下にやってきた沢山の動物たちが増え

た」と言った。スティーブンの乗ったかがり火のある箱船は、星ひとつない月の光に照らされた海を進んでいって、箱船で一休みして朝陽が訪れて、昼食にマグロの魚肉と野菜を食べて、長い航海を明け暮れて夕食に牛肉と野菜を食べた。スティーブンはいつの間にかゲマール船長から交代でキツネザルのデップ船長がイスに座って箱船の舵をとっていることに気づいた。デップ船長は帆を張る棒の上で望遠鏡で陸が見えてきて、舵をとるゲマール船長に報告をして６泊７日かけて航海した長い航路に終着した。箱船を降りたスティーブンはゲマール船長とデップ船長に、「ありがとうございます」と言って去っていくと、デットはスティーブンに、「これからの長い道のりを案内するよ！」と言って飛んでやってきた。スティーブンとデットは陸の上を歩いていって、海の見えないところまでやってくると、またひたすらねこの王国へ向かっていった。スティーブンとデットはねこの王国に向かった途中で馬を見つけて取っ捕まえた馬に乗ってねこの王国のある森へ向かっていった。コウロギを捕ってきたデットはスティーブンに、「これを食べな！ 高タンパク質だから」と言って咥えたコウロギを嘴から渡した。スティーブンは、「生きたままの虫は遠慮する」と言ってコウロギを逃した。デットは、「ここからねこの王国まで８０キロもあるのに何も食べずに我慢できるのかよ！」と言って気づかった。スティーブンとデットは２日間でねこの王国のある森にたどり着いた。２日前、地上にいるマイクは、宇宙科学班がテレポーションスポットを調査した結果によって、ドイツの森に上りが見つかってトルコのイスタンブールの森に下りがあると聞いた。マイクはイスタブールの森の辺りの地帯の地下にねこの王国があることを勘づいた理由として、ねこの王国から砂疑獄の刑で追放されたときに砂漠地帯に入ると、蜃気楼が立った川の近いところから砂地獄のあるところまで８０００キロ先の向こうにいきなり進んでしまう不思議な空間があって、ベトナムのジャングルの辺りの地帯の地下にたどり着いていたことを覚えていたからだった。マイクはブラウン局長から地底世界のネコ科動物の支配下撲滅の了解をもらえたためにアメリカで集めた人間をイスタブールの森へ派遣してナンシーと一緒に再び飛行探査機に乗って北極地点へ向かっていった。スティーブンとデットは森の中に入っていって、ねこの王国へ向かっていった。スティーブンとデットは森の道を歩いていくたびに木の枝の上から猿たちと猫たちに見回れた。ねこの王国にたどり着いたスティーブンとデットは、王様のいる宮殿にティムだと思うゾーイ王子がいるだろうと思って宮殿へ向かっていった。森にあるねこの王国の宮殿にて、ソーダ王はゾーイ王子に、「よく戻ってきた！ どこへ行っておった？」と聞いた。ゾーイ王子は、「海を目指して冒険したところ大きな穴に吸い込まれていって、地上に投げ出されて反射神経で両足で着地したドイツの森をさまよって、北部へ向いて歩いていったところから海が見えてきて、船乗り場にたどり着いた。そこから船に忍び込んで船が動き出して進んでいった。気づいたらアメリカのニューヨークにたどり着いていた。船から降りてニューヨークの街をさまよって、郊外に出たところでアパートに扉が少し開いた部屋を見つけて、扉の開いた隙間から入って部屋にいた人間に食べ物を催促していったら親切に食べ物を与えてくれた。しばらくその人と一緒に生活を共にしていたけど地底世界のねこの王国の話を持ち込んできた人間が訪れてネコ科動物の支配下撲滅のために人間を送り込りこもうとしていると危機を感じてセントラルパークにある大きな穴から地下に降りて船に乗った！」と答えた。そこにゾーイ王子の妹の華奢な緑色の瞳で短毛種の

白猫のデイジー王妃がやってきた。デイジー王妃はゾーイ王子に、「お兄ちゃん元気してた？ 地上での大冒険をしてきたみたいね！」と聞いた。ゾーイ王子は、「元気だよ！ 地下の海を目指していったところ地上の海にたどり着いてしまった！」と答えた。デイジー王妃は、「それはすごいね！ 私も地下の海の浜辺へいったみたいよ！」と言った。ゾーイ王子は、「それより人間たちがねこの王国を攻撃してこようとしてるかもしれないんだ！」と言った。デイジー王妃は、「わ！ 怖い！ なんのために？」と聞いた。ゾーイ王子は、「ネコ科動物の支配下撲滅のためらしい」と答えた。宮殿に着いたスティーブンとデットは、護衛のゴリラたちに取り捕まえられた。スティーブンとデットはゴリラたちに宮殿の王室に連れてこられた。ゾーイ王はスティーブンに、「おまえはあの時にマイクと一緒にいた仲間じゃないのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうだけど！ 俺はマイクを置き去りにして地上に戻ってしまい後悔している」と答えた。ゾーダ王は、「仲間を置き去りにしていくとはなんたる不届き者だ！」と言った。ゾーダ王は、「あいにくだけどマイクは砂地獄の刑に処された。残念だったな！ おまえも檻に入れた後で砂地獄の追放する。人間たちを送り込んでねこの王国を攻撃しようとしてるらしいじゃないか？」と聞いた。スティーブンは、「それは違う！ マイクは砂地獄の追放の途中でテナガザルに助けられて危機を逃れた。その後はジャングルでデジャブ村長に出会ってネコ科動物の支配下撲滅を約束してベトナムのジャングルの地上に上がってこれた。そして半年経ってアメリカに戻ってきて、人間たちを集めて、地下にやってこようとしてるんだ！」と答えた。ゾーダ王は、「嘘をつくな！」と言って怒った。猫目を丸くしたゾーイ王子は、「待ってくれ！ 地上で一緒に暮らして僕を可愛いがってくれた人なんだ！」と言った。スティーブンはゾーイ王子に、「おい！ ティムか？」と聞いた。ティムは、「そうだよ！ よくここにいることがわかったね！」と答えた。スティーブンは、「言葉を話せるんだ！」と言った。ティムは、「話せないフリをしてたんだ！」と言った。ゾーダ王はゴリラたちに、「構わずにスティーブンを檻の中に入れろ！」と言って命令した。ティムはゴリラたちに、「そうはさせない」と言ってゴリラたちに背筋を立て大きく見して威嚇した。デットはゴリラたちが掴んだ手を嘴で咬みついて解き払って、スティーブンを掴んだ手も咬みついて解き払って解放した。デイジー王妃はゾーダ王に、「やめてあげてお父ちゃん！」と言った。ゾーダ王は、「わかった！」と言ってゴリラたちを止めさせた。スティーブンは行方が途絶えていたティムに会えることができて安心した。トルコのイスタンブールの森にて、猟銃を持った人間たちは、テレポーションスポットの大きな穴に、「わー！」と悲鳴を上げて一人ずつ飛び降りていって、地下に投げ出されていって、ねこの王国のある森にたどり着いた。人間たちはねこの王国へ向けて険しく謎めかしい森の中を進んでいった。人間たちは森を進んでいくと、ウサギとリスなどの小動物を見かけて木の枝の上を動いてる猫たちと猿たちを見上げて立ち止まった。人間たちは再び森の奥へ進んでいったところにゴリラたちがやってくると、ゴリラたちに向けて猟銃を構えた。ゴリラの護衛隊長は人間のリーダーに、「何をしにねこの王国にやってきた？ ライオンたちを呼んで人間たちを砂地獄に追いやるぞ！」と言った。人間のリーダーは、「ゴリラめ！ おまえたち人猿のヒト科動物にようはない。奴隷になってるサル科動物とヒト科動物を解放させてネコ科動物の支配下撲滅をしようとやってきた。通さないのなら構わず撃っていくぞ！」と言った。ゴリラの護衛隊長は胸を叩いて人間たちに考え直

させようととシグナルを送った。人間たちはゴリラたちを猟銃で撃っていったが、走ってきたゴリラに掴まれて振り回されて投げられて岩場に頭をぶつける者もいた。人間たちは向こうからやってきたヒョウとクロヒョウに猟銃を向けて撃っていったが、狙いがはずれてヒョウたちに襲われていった。人間たちの中で走って逃げていく者にネコ科でもっとも足が速いチーターに飛びつかれていった。人間のリーダーはお手上げとなって、乱闘を避けてわからないように身を隠して砂漠のほうにやってきた。逃げ切れた人間のリーダーは少し安心していたが、「ガォー！」と吠えた声に後ろをふと振り返るとライオンがいた。人間のリーダーは向かってくるライオンに向かけて猟銃を向けて後ろに下がっていたら不思議な空間に入って８０００キロ先向こうの砂地獄にやってきた。人間のリーダーはライオンがやってこないようだからこのままジャングルにいるヒト科動物のオラウータンのデジャブ村長に会えばテレポーションスポットの大きな穴から地上に戻れるかもしれないと思って、ジャングルへ向かっていった。人間のリーダーはジャングルのある南へ歩いていった途中で砂地獄の雪崩れに巻き込まれていって、砂地獄の真ん中の穴から現れた巨大ミミズの開いた口に吸い込まれていって、まるごと呑み込まれていった。マイクとナンシーの乗る飛行探査機は、森にあるねこの王国の宮殿を目掛けてやってきた。宮殿の中にいるゾーダ様たちは、宮殿の外が喧騒であると気づいたときにヒト科動物のチンパンジーのデビットがやってきて、「ゾーダさまー！ 大変です！ 人間たちが宮殿へ向かって攻撃してきてる」と言った。スティーブンとデットはゾーダ王とティムとデイジー王妃とデビットを連れて宮殿の外に出て、海のある東の方向へ走っていった。マイクが操縦する飛行探査機は宮殿へ向かってレーザー弾を何発か発射して宮殿を破壊していった。スティーブンたちは森の外へ避難しようと走ってるときに、飛行中の飛行探査機を操縦するマイクがゾーダ王を見つけ出して、レーザーショットガンを発射していった。スティーブンはデットとデビットはゾーダ王とティムとデイジー王妃に先起こされて追い抜かれていった。スティーブンは前方にるゾーダ王たちにところに飛行探査機でマイクが発射したレーザー弾が落ちた。スティーブンはもしかしてティムに何かあったらと思ってすぐにレーザー弾の落ちたところに駆け付けた。スティーブンはゾーダ王とデイジー王妃がそこで立ち止まって倒れたティムの様子を窺っている悪夢が的中した。スティーブンはティムを抱き上げて降るって、意識があるか確かめた。スティーブンはティムを地面に寝かして目の動きを確かめて息をしてるか確かめて心臓の動いているか確かめた。スティーブンはティムの胸元に耳を当て心臓の鼓動を聞いて息をしていることが確認できた。スティーブンはマイクが操縦する飛行探査機が旋回してまたレーザー弾を落とそうとやってくるときに、ナンシーから受け取っていた飛行探査機と共有のモニター付きリモートコントロール機を取り出して　電源を付けて遠隔操作モードに切り替えて、マイクの操縦する飛行探査機が操縦不能となった。スティーブンはマイクとナンシーの乗せた飛行探査機から前進方向をモニターで見ながらリモートコントロール機を遠隔操作した。飛行探査機は砂漠のほうへ向かっていって、砂漠にやってくると、不思議な空間に入っていって、砂地獄にやってきた。スティーブンは遠隔操作する飛行探査機で何発か砂地獄にレーザー弾を落として爆撃していった。スティーブンは砂地獄の穴から現れた巨大ミミズの開いた口に標準を合して、レーザー弾を落として爆破して巨大ミミズを倒した。スティーブンは飛行探査機を自動で緊急着地させた。ス

ティーブンはティムのところに戻ってティムを抱きしめながら、早く目を覚ませと願ってると、地底の太陽の森の仙術師のメビアスが空から問いかけた。メビウスはスティーブンに、「命の泉にある赤く輝いたエンジェルストーンを見つけ出してティムの胸元に当てるといい！」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って地底世界で最初に見つけた泉へ向かっていった。泉にたどり着いたスティーブンは、命の泉に飛び込んで潜ってエンジェルストーンを探して回った。スティーブンは赤く輝いているエンジェルストーンを探し出して、命の泉から外に出てティムのいるところに戻ってきて、ティムの胸元にエンジェルストーンを当てしばらくしてからティムが意識を取り戻して心臓の鼓動が活発になって、目を覚ました。スティーブンは涙を流しながもティムを抱きしめた。スティーブンはティムに、「よかったな！ 意識が取り戻って！ このまま会えなくなるかと思ったぞ！」と言った。ティムは、「僕はどうしてたんだ！ あなたは誰？」と聞いた。スティーブンは、「おい！ ティム！ 冗談をいうなよ！ 一緒に住んでいただろう！」と答えた。ゾーダ王はスティーブンに、「記憶障害が起きている！ 思い出すまでは時間がかかるだろう」と言った。ティムはゾーダ王に、「ブラックライオンさん！ こんにちは！」と言った。ゾーダ王は、「私を忘れたのか！」と言った。ティムはデイジー王妃に、「お母ちゃんは元気か？」と言った。デイジー王妃は、「お母ちゃんはアビゲイル女王よ！ 争いのない花の楽園を探して西の方向へ出ていったきり、戻ってこないわ！ それにお父ちゃんはブラックライオンじゃないわよ！ ねこの王国マァウのゾーダ王よ！」と言った。ティムは、「そうだったのか！ でも、お父ちゃんはブラックライオンじゃなくて猫だったよ？」と聞いた。デイジー王妃は、「ハイエナ族のマジョリーヌ女王に魔法かけられて猛獣の姿にされたのよ！」と答えた。ティムは、「何が起きたのかわからない？」と聞いた。デイジー王妃は、「お兄ちゃんはねこの王国のゾーイ王子なの！ 私は妹のデイジー王妃」と答えた。ティムは、「デイジーは兄妹であることを知っていた」と言った。ブラックライオンはデイジー王妃に、「宮殿を再建するまで時間がかかる。アビゲイルの向かった花の楽園を探しに行くしかない！」と言ってデイジー王妃とティムを連れて西の方向へ向かっていった。スティーブンはデットに、「俺のことを助けてくれてありがとう！ それじゃあね！」と言ってねこの王国のある森を離れていった。デットは、「どういたしまして！ ティムのことは残念だったな！ じゃあ！」と言って海の船乗り場にある箱船へ戻っていった。デビットは、「わたくしの役割はもはやこれまでか！ いや！ まだ終わってない！」と言ってデジャブ村長のいるジャングルに戻らずにゾーダ王たちが向かってる花の楽園を探しに向かっていった。スティーブンは暑い砂漠で砂地獄のあるところに空調装置を作動させて冷房を効かしてるが、飛行探査機の中に閉じ込めたままのマイクとナンシーを忘れて放置しておく訳にいかなったのでリモートコントロール機を使って飛行探査機を起動させて遠隔操作して上昇したら、前進して砂地獄から北へ向かっていくと、不思議な空間に入っていってから、ねこの王国のある森の入り口近くにいる自分のところまで持ってきた飛行探査機を降下させた。スティーブンはリモートコントロール機で飛行探査機のドアを開いてマイクとナンシーが飛行探査機から降りた。マイクはスティーブンに、「なんてことしてくれたんだ！ 俺は置き去りにされてブラックライオンに殺されかけたんだぞ！」と言った。スティーブンは、「あのときはそうするしかなかったんだ！ 飛行探査機の燃料と攻撃用の武器と燃料のない状況で地上

へ戻るしかなかった。俺も先輩に大切な猫を殺されかけたんだ！」と言った。マイクは、「ねこの王国に大切な猫がいたのか？」と聞いた。スティーブンは、「地上に戻ってから地底世界に先輩を置き去りにしていったことに責任を感じて、宇宙飛行士を辞退した後でニューヨーク郊外のレストランの厨房で皿洗いでもしてぼろアパートに佇んでいたときに、部屋の少し開いた扉の隙間から、『にゃー！』と言って入ってきた猫ちゃんを飼っていたけど半年後にいなくなって探しに向かったセントラルパークの大きな穴に落ちて吸い込まれていったところが地底世界で海から箱船に乗っていって、陸から馬に乗っていって、ねこの王国にたどり着いたところ飼っていた猫ちゃんがねこの王国の王子だったなんて信じれなかったよ！」と答えた。マイクは、「そんなことがあるなんて奇遇だな！ リモートコントロール機を持っていたなんてナンシーとグルだったのか？」と聞いた。スティーブンは、「グルじゃないけどナンシーさんが訪れてネコ科動物の支配下撲滅のための先輩が地底世界に向かおうとしていると聞いて何かあったときのためにリモートコントロール機を持たされていた」と答えた。ナンシーはマイクに、「そうよ！ 私は動物愛護を守るからねこの王国の攻撃に反してリモートコントロール機をなくしたことにした」と言った。マイクは、「酷いやつらだな！」と言った。黄緑色の瞳で短毛種の白猫のアビゲイル女王は探し出した花の楽園に建てた宮殿で暮らしていた。アビゲイル女王は猫たちと移住した宮殿に暮らしているときに、反乱するハイエナ族のマジョリーヌ女王が自らオスのズール王となって、ハイエナたちを引き連れて宮殿で働かされてる奴隷の猿たちを横取りにして、支配するアビゲイル女王の宮殿を占領してやろうと企んでやってきた。宮殿の門に護衛のトラたちがいる中をズール王の率いるハイエナたちが突入しようとしてきた。外周りでパトロールしているジャガーたちが飛び入り参加して宮殿の門まで走ってきた。ハイエナたちはトラたちとジャガーたちと戦って勝つことができた。ハイエナたちは宮殿の庭にある花の楽園に侵入してきて、慌てた猫たちと猿たちは宮殿の外に逃げ出していった。アビゲイル女王は宮殿に取り残されて猛獣たちの護衛の力を信じて宮殿を守ろうとしていたときに、ブラックライオンのゾーダ王が猛獣たちを引き連れて宮殿にやってきた。チーターたちは体格の大きな強敵ハイエナたちに立ち向かったが、追い払われてしまった。ハイエナたちはヒョウたちとクロヒョウたちと戦って勝つことができたけどライオンたちに敵わなかった。ライオンのオスは縄張りの強いものについていくメスに狩りをさせて生きていくだけにライオンたちに勝てなかったハイエナたちが倒れてズール王だけ残った。ゾーダ王はライオンたちが見守る中でズール王と戦った。ゾーダ王はズール王と咬みつきあって爪で引っ掻いて牙で咬みついていって、力が衰えた裏切り者のズール王は、「魔法をかけるんじゃなかったよ！」と言って力尽きて倒れた。ゾーダ王はズール王が倒れたお陰で魔法が解けて目の茶色いグレイの短毛種で顔の周りに生えたふさふさした黒い髪がなくなって、立ち耳のゾーイ王子よりも橙色の瞳で折れ耳の短毛種の黒猫となってから被さった赤いマントの中から現れた。ゴリラたちは宮殿の周りを片付けると、猫たちと猿たちが宮殿に戻ってきた。ゾーダ王とアビゲイル女王とゾーイ王子とデイジー王妃は新しいねこの王国マァウとして花の楽園のある宮殿に暮らすことになった。デビットはゾーダ王に王冠を置いて赤いマントをかけた。ゾーダ王たちはゾウに乗って猫たちに囲まれて猿がダンスをする賑やかなパレードをした。スティーブンはティムと邂逅（ かいこう ）した思い出を残して地底世界を旅立つ

前に２日間も何一つ食べてなくて腹すいていたためにどこかで腹ごしらえしようと森に戻って栗と木の実などを食べてきた。スティーブンとマイクとナンシーは飛行探査機に乗ってヘルメットを被って通常操作モードに切り替えて飛行探査機を上昇させて前進して北極地点へ向かっていった。スティーブンは北極地点へ向かっていった途中で飛行探査機の空の上から新しいねこの王国と見られる花の楽園にある宮殿の通りでティムたちがゾウに乗って猿たちが賑やかなパレードをしてるのが見えた。スティーブンはティムに、「またいつか会いに行くから！」と言った。飛行探査機は山の谷間を進んでいって、北極地点にたどり着いた。飛行探査機は反転して地下空洞穴の中へ上昇していって、地上にたどり着いた。飛行探査機は前進して NASA の本局へ向かっていった。NASA の本局にたどり着いたスティーブンたちは飛行探査機に乗って飛行探査機から降りて局長室へ向かった。局長室に来たスティーブンたちは出迎えたブラウン局長に会った。ブラウン局長はスティーブンに、「久しぶりだ！ スティーブン！ もう宇宙飛行士を復帰したらどうだ！ 大きな穴に吸い込まれていった行方不明者たちがいる。中央アフリカのサバンナとサハラ砂漠とマダガスカル共和国とアルゼンチン北部とメキシコのソノラ砂漠と中国北部とロシアとインドとインドネシアとマレーシアとタスマニア島とオーストラリア南部に下りが見つかった！ 行方不明者を助けに行ってほしい」と言った。スティーブンは、「大地は広すぎて行方不明者を見つけにくいです。自分はしばらくの間ニューヨーク郊外で過ごしてじっくりと何がしたいかを考えたいと思います。もしも行方不明者を探しに地底世界へ向かいたいと思うなら宇宙飛行士としてじゃないですが、また参加させてもらいます！」と言った。ブラウン局長は、「待ってるぞ！」と言った。マイクとナンシーは NASA の宿舎へ戻っていった。スティーブンは NASA 本局から外に出てワシントン・ダレス国際空港から飛行機に乗って、ジョン・Ｆ・ケネディ国際空港まで行って、ニューヨーク郊外のアパートへ戻っていった。マイクとナンシーは NASA の宿舎へ戻っていった。地底世界はさるの国テゥトといぬの国インプゥを滅ぼしたねこの国マァウから猛獣たちが散らばって、シマウマの１頭に一番足の速いチーターの５頭が襲いかかって、チーターの１頭がシマウマの首を噛んで息の根を止めて仕留めるなど野生の王国が広がっていった。地底の太陽の森の仙術師のメビアスは、森で生活するネズミとリスとウサギと野鳥とフクロウなど地底の月の仙術師のカイデンは、山で生活する昆虫とシカとキツネとタヌキとイノシシとクマとパンダなど地底の風の草原の仙術師のラピュタは、草原で生活するイヌとヤギとヒツジとウマとウシとブタなど地底の雲の空の仙術師のペトラは、雲から雨を降らしたりできて砂漠に生活するキリンとシマウマとゾウとサイとカバとトカゲとガチョウとカンガルーとコアラとタスマニアンデビルなど地底の海の仙術師のアピスは、火山帯を避けた陸地で地上の海と地下の海を繋げて海で生活する魚たちとサメとアザラシとアシカとイルカとクジラなど川で生活するワニとカエルとカメとアヒルとカモなどの環境を与えた。地上２ヶ月後、マイクはベトナムのジャングル近くの村のリエンの家に訪れてリエンの妹が出て来てリエンを呼んできた。マイクはリエンと再会してあのときのお礼にレストランで食事を招いた。スティーブンはアパートの部屋で本を読んでたら少し開いた扉の隙間から、「にゃー！」と言って入ってきた。スティーブンは間違いなくティムとわかった。スティーブンはティムに、「ティム！ 戻ってきたんだな！ 俺のことを覚えてるんだ？」と聞いた。ティムは、「もちろん覚え

てる！ お父ちゃんが猫に戻って記憶を取り戻した。猫は単独で生きる動物だから家族と離れてきた」と言った。スティーブンはティムに、「ありがとう！」と言ってティムを抱き上げた。-END-

Wild Hunt New Era 3 Cat's Land

著　　八島　聖彦

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社